



公益社団法人

3.11 メモリアルネットワーク

命をつなぐ 未来を拓く

災害と教育

～東日本大震災、能登半島地震を未来に活かす～

次第

- | | | |
|-------------|---|--|
| 13:00~13:10 | 開会挨拶 | 武田真一(3.11メモリアルネットワーク代表理事) |
| 13:10~13:40 | 第1部 能登半島地震の現状報告 「学校と地域が一体となって取り組む防災の大切さ」 | 小川正様(輪島市教育委員会教育長) |
| 13:40~13:55 | 質疑応答 | |
| 13:55~14:05 | 休憩 | |
| 14:05~14:25 | 第2部「学校現場での実践事例共有」 岩手から | 佃拓生様(釜石市立釜石東中学校校長) |
| 14:25~14:45 | 宮城県から | 津守大智様(宮城県多賀城高等学校) |
| 14:45~15:05 | 福島から | 猪俣由美様(福島県立あさか開成高等学校教諭・国際部) 目時千夏様(福島県立あさか開成高等学校教諭・国際部) |
| 15:05~15:15 | 休憩 | |
| 15:15~16:30 | 第3部「パネルディスカッション」 | 小川正様, 佃拓生様, 津守大智様, 渡部真奈美様, 司会進行/武田真一 |
| 16:30~16:40 | 事務局から | 中川政治(3.11メモリアルネットワーク専務理事) |
| 16:40~16:50 | 閉会挨拶 | 瀬成田実(みやぎ教育相談センター所長・元中学校教員) |

開会挨拶

公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

代表理事 武田 真一



公益社団法人 岩手・宮城・福島の伝承連携組織

3.11 メモリアルネットワーク

命をつなぐ 未来を拓く

目的

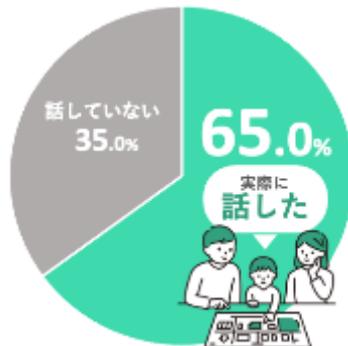
東日本大震災の伝承を通じて
・災害でいのちが失われない社会
・被災の苦難を軽減し再生に向かえる社会
の実現に貢献します

広域伝承連携部門

地域伝承推進部門



年度末(3月)までの間に
聞いたことを家族に話した？



「あの時、子どもだった私たちから伝えたいこと」



amazonで3巻セットをご購入いただけます

第1部 能登半島地震の現状報告
「学校と地域が一体と
なって取り組む防災の大切さ」

輪島市教育委員会
教育長 小川 正 様

災害と教育

東日本大震災、能登半島地震を未来に生かす

「学校と地域が一体となって取り組む 地域防災の大切さ」

- ・能登半島地震・輪島市の現状
- ・能登町小木中学校における防災の取組

他

元小木中学校長・輪島市教育長 小川 正

人口 21,867人
高齢化率 約49%

輪島市



- 能登半島の北西部に位置
- 東部町野地区、中央部輪島地区、西部門前地区に
- 市面積の約78%を占める山地が東西に連なり海に
- 狭い海岸線の低地に市街地
中山間地に集落が点在
- ライフライン、交通、通信、
空港港湾等インフラに課題
- 県庁・金沢市から100km

千枚田初夏



日本海夕日





輪島海女捕り・アワビ

加能がに



輪島 朝市



天然輪島ふぐ
(水揚げ日本一)

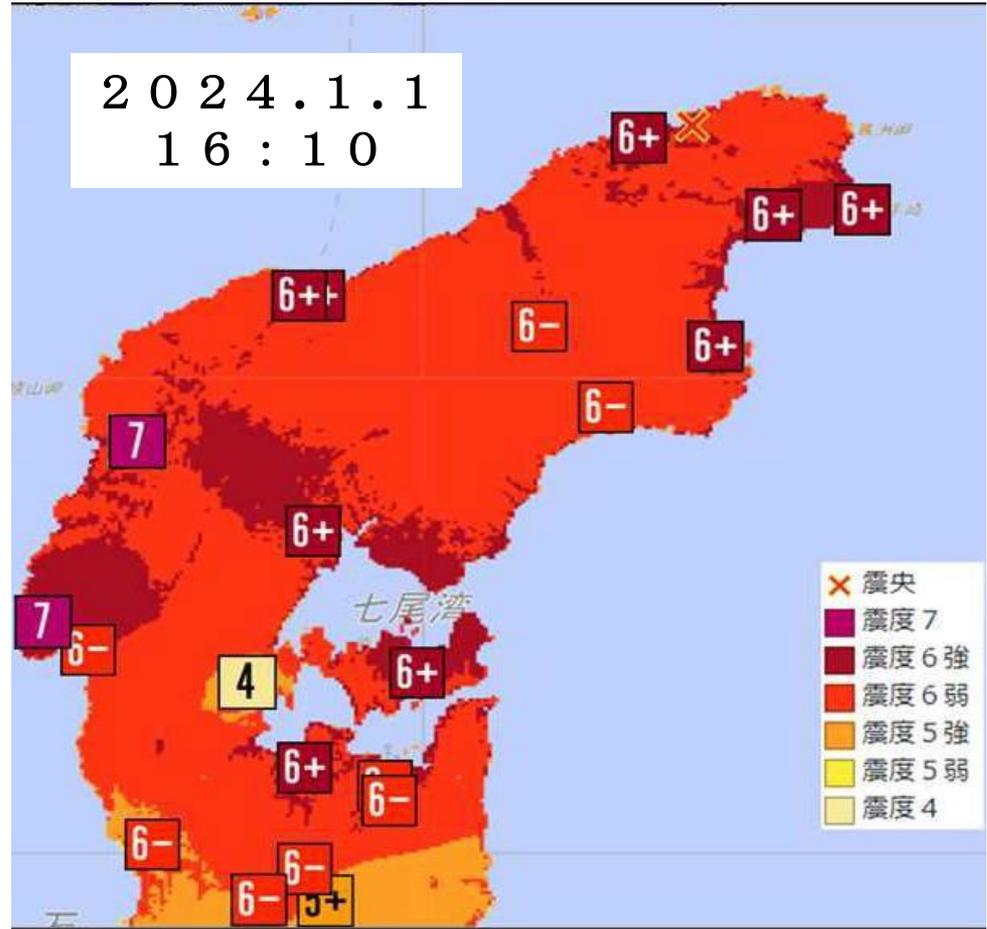


令和6年能登半島地震

輪島市 **震度7**
能登に **大津波警報**

(震度 5強以上)

震度 7 輪島市、志賀
震度 6強 七尾市、珠洲市
穴水町、能登町
震度 6弱 中能登町
震度 5強 金沢市、小松市
加賀市、羽咋市
かほく市、能美市
宝達志水町





中央部輪島
地区

東部町野
地区

西部門前
地区

輪島市発災時の状況

【火災現場】

断水、ガレキで消火栓
水槽水利を阻まれる



【倒壊家屋】、【土砂災害】

倒壊家屋多数、
土砂災害の規模甚大



【孤立集落】

広範囲多数の
孤立集落発生

輪島市被害等の状況



輪島朝市周辺



輪島市被害等の状況



建物被害の一部



輪島市被害等の状況



下山町周辺



中屋トンネル

道路等被害の一部



市役所周辺



市役所周辺

輪島市被災状況

7.10現在

人的被害 死者 130人 内関連死 28人
重症 213人 軽傷 303人

行方不明 3人

住家被害

3人

半壊以上

15,044件 (64%)

全壊 6,968件 大 中 半壊 8,076件
準・一部 8,321件

孤立集落 14地区 2,817人 (2.13に解消)

避難指示 6地区 (288世帯 671人)

火災 4.9ha 240棟 焼失 海岸 1.5m~4.0m 隆起

避難所の様子



避難者等の状況

【発災時及び現状】

市内(1次・福祉)・自主(集会所・個人宅・ビH)

市外(1.5次・2次・広域避難/地区集団避難)

最大時^(1/2) **186箇所** **13,641人**

推移^(8/16) **61** (内18/外43)箇所 **406** (内169/外237)人

【直後】

電気 最大 10,000戸以上で停電
水道 給水戸数11,434全地句で断水
孤立 14地区2,817人自衛隊徒歩救出

数カ所の主要指定避難所・学校が使用不能

可能避難所(学校・社教施設)が**過密状態**

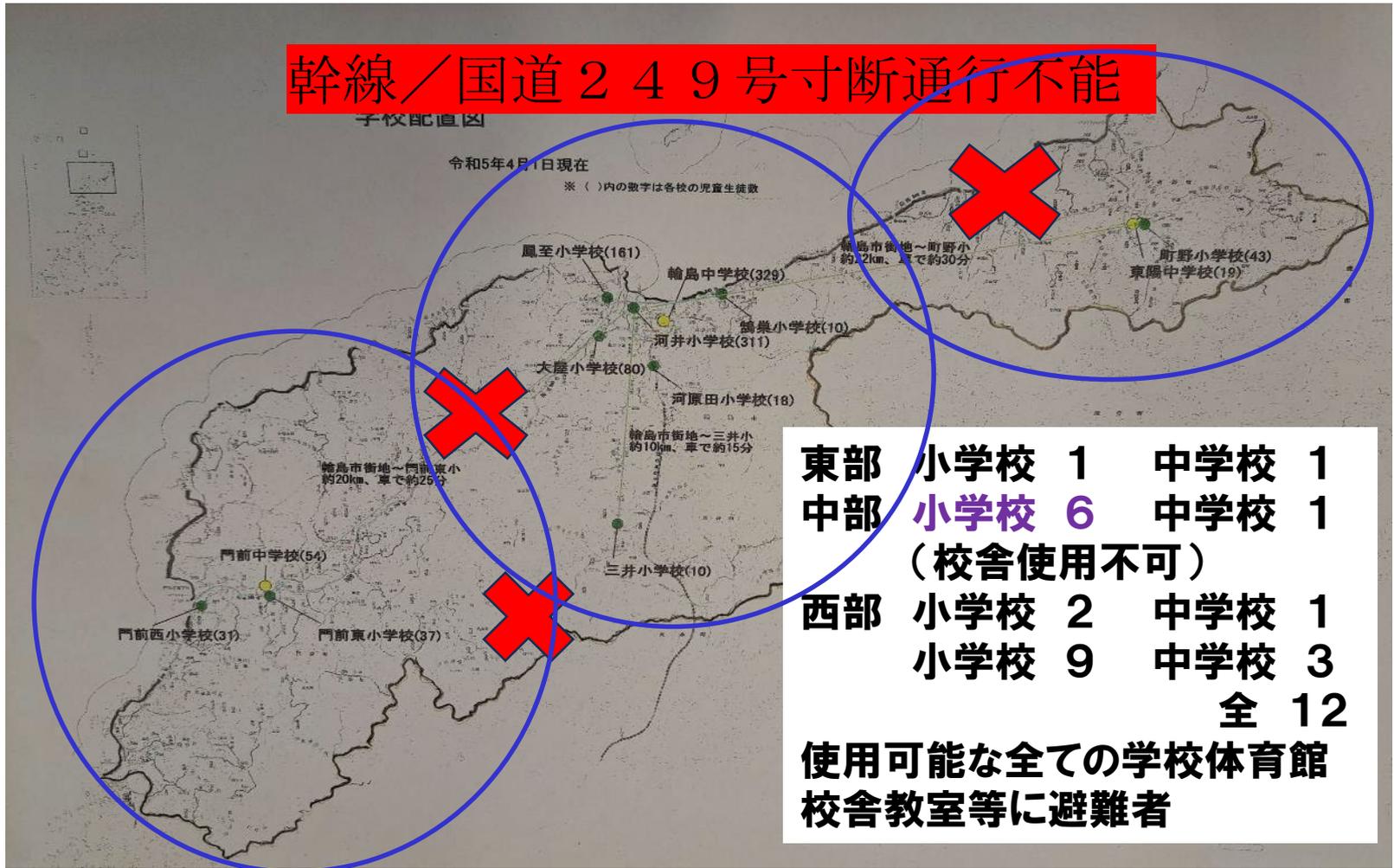
避難者等の状況

7.10現在

| | | | |
|------|------|----------------|---------------------------|
| 避難所 | 1次 | 253人 | (市内19カ所) |
| | 1.5次 | 10人 | (金沢・県総合スポセン) |
| | 2次 | 722人 | 小計 1,049人 (避難所住数) |
| 広域避難 | | 64人 | (金沢27 羽咋18 白山6 能美5 野々市8) |
| みな仮住 | | 1,716人 | 総計 2,765人 (避難+みなし) |
| 避難指示 | 6地区 | 128世帯 | |
| 仮設住宅 | 完成 | 35団地 | 2,282人 |
| | 建設中 | 11団地 | 615人 |
| | | 全 46 団地 | 2,897人 (10月完成) |

学校配置図 (小9, 中3)

幹線/国道249号寸断通行不能



発災・初動

第一に児童生徒教職員の安否(現状)確認 —学校(勤務先)でなくてもできる—

- 児童生徒(保護者)とつながる手立てを工夫
携帯電話やタブレット端末、避難所訪問
- 現況の確認(家族の状況、住居環境)
まずは、安否所在確認
- 何がしかの活動を助言
そこでできる事をともに考え、助言

まずはつなく
一人にしない

小中の被害状況・仮設校舎

【施設被害状況】

【応急仮設校舎／6小学校合同校舎】



7月末完成 8/27よ



全小中校舎・体育施設等**甚大な被害**かつ**避難所**となり、各学校ごとによるの**学校再開の見通し立たず**。



1月17日～

中学生白山市へ 2施設3中校利用
(輪島市3中学校生徒約250人)

2月6日～

市内県立輪島高校舎で6小1中1高
児童生徒(約300人)で授業開始

4月8日～

中央部1中校舎で、6小1中合同で

8月27日～

6小合同で仮設校舎へ

中学生集団避難

【期 間】

1/18~3/8 (3
年)

~3/22 (1/2年)

白山青年の家

輪島3年、東陽、門前 118人

白山ろく少年自然の家

輪島中1・2年 130人

※1.2年生は**白山市3中学校**

に通学 (輪島市中中学生用教室)

小9校、中3校

震災前 (R5.12.1)

1,100人

震災後 (R6.5.1)

689人

▲411人

(▲37.4%)

2学期 (R6.9.1)

775人

86↑▲325人

生徒の 中学生集団避難

「安全安心な衣食住・学びの場」を

確保提供

- ・避難所や厳しい生活環境を回避
- ・心身のケア(皆と一緒に)・学びの維持継続

結果として 保護者の生活再建への側面的支援にも

※中学生なら、3か月程度は、耐えられる← 前例なし
あくまで任意(生徒・保護者の判断)で⇔**難しい選択**
集団避難(宿泊体験施設)許可支援願⇔ 県教委へ

白山市での生活&学校活動

1月18日～3月22日 白山市へ

県白山市の
全面的支援

- **少年自然の家** 1・2年生(輪島中)
 学びの場 白嶺中、鳥越中 130人
- **青年の家** 1・2・3年生(東中、門中、輪中)
 学びの場 鶴来中、青家集会室(3年)118人

市内在住児童生徒 2月18日現在 自宅・避難場所で待機

輪島市内での学校再開

- 西部(門前地区) 1月24日 門前東小校舎
門前東小・門前西小・門前中 (3校合同)
- 東部(町野地区) 1月30日 町野小学校舎
町野小・東陽中 (2校合同)
- 中部(市街地区) 2月 6日 輪島高校舎
河井・鳳至・大屋・河原田・鶴巢・三井・輪中・輪高
(8校合同)

※昼食提供 2月13日～ 通常日課 2月19日～

昼食の提供

2.13～4.30

ともかく暖かいものを

ご飯・惣菜 石川七尾・炊飯会社様

(弁当形式 飯菜別配)

汁物 宮城松島・ボランティア団体様

(炊き出し)

給食形式 ⇒ 弁当形式
児童生徒保護者 ⇒ 任意



- **西部(門前地区)** 4月7日～ 門東小校舎で
門東小・門西小 (2校合同)

8月下旬 門東小校舎 **危険判明** ↓

9月2日～ 2小⇒ **門中校舎**へ (3校合同)

- **中部(市街地区)** 4月7日～ 輪島中校舎で
河井、鳳至、大屋、河原田、鵜巢、三井 輪中 (7校合同)



9月2日～ 6小⇒ **仮設校舎**へ (6校合同)

- **東部(町野地区)** 4月7日～ 町野小校舎で
町野小・東陽中 (2校合同)

※5月1日～ **完全給食再開**

私たちの防災

2011～'16年度における6年間の取組

小木から一人の犠牲者も
出したくない

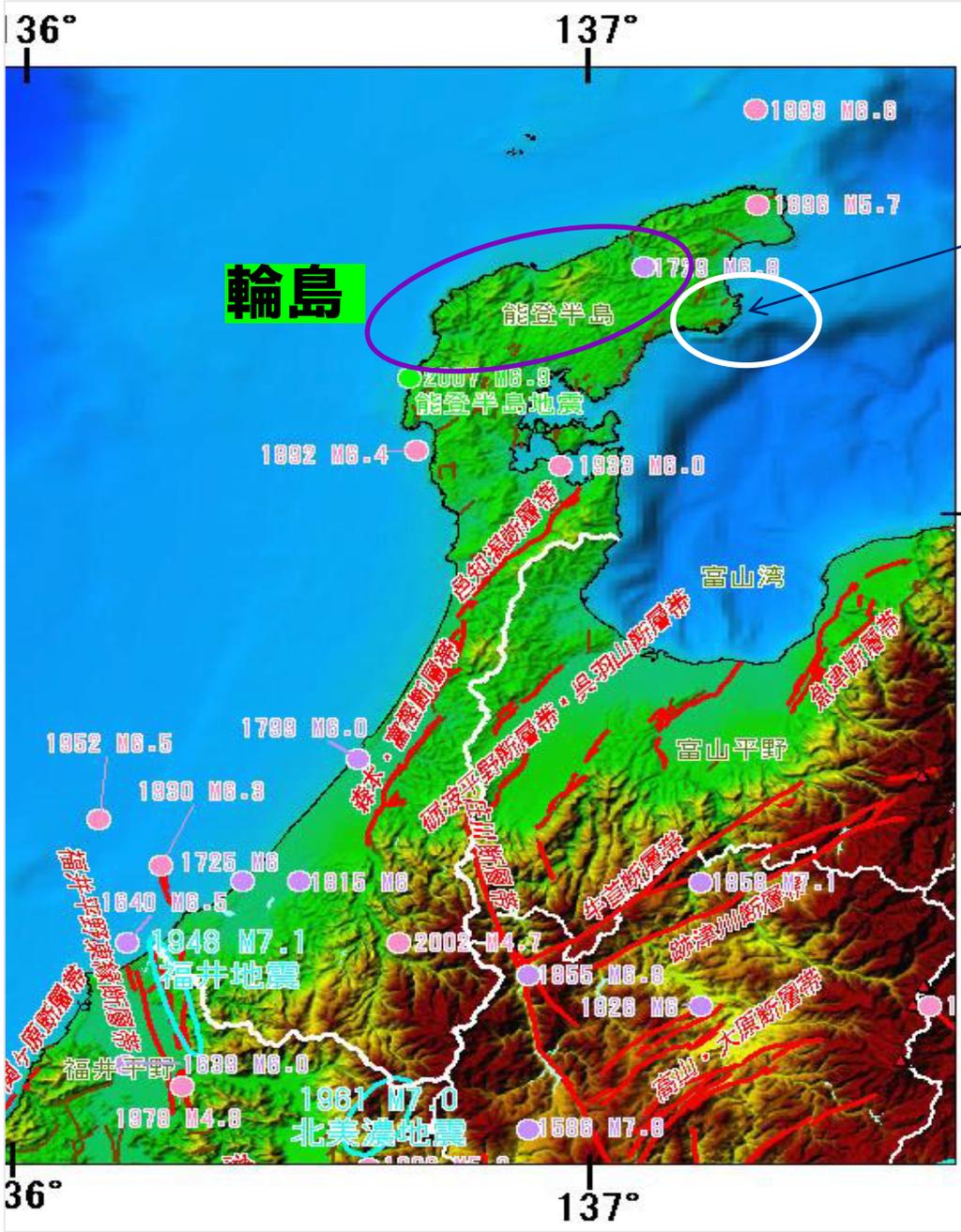
能登町立小木中学校

はじまりは 2011年3月11日

東日本大震災

街頭募金、1時間で16万円

小木もリアス式海岸
他人事ではなかった



小木

能登半島東方沖地震
M7.8 約9分で
11m以上の津波

-  被害地震 (波源域・震源域)
-  被害地震(～1884年)
-  被害地震(1885～2003年)
-  被害地震(2004～2007年)
-  群発地震
-  長期評価を行った活断層
-  活断層 (確実度 I, II)
-  火山

小木からひとりの犠牲者も 出さないために

津波のことを
小木の人達に
知ってもらおう

たくさんの人に
避難してもらおう

みんなの参加する

避難訓練をする！！

家庭用ハザードマップ作成



小木地区全家庭へ配布

2011.10.6
小木中学校3年作成

小木地区避難経路の紹介ビデオ作成



防災の歌 & 防災体操

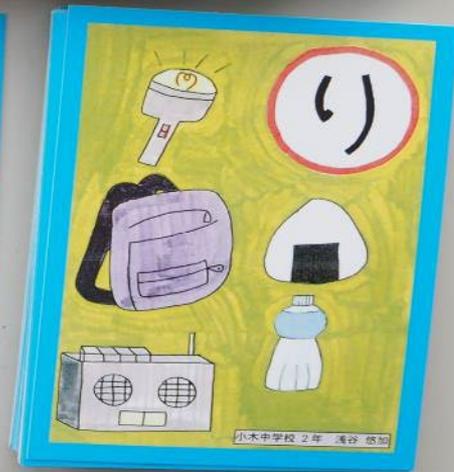
- 1 地震だ地震
頭を守れ
揺れが止つた
ら
周りを見てね
- 2 ガラスや壁に
気をつけてね
みんな元気か
声をかけよう

保育園児にも
教えに行っています



防災 カルタ

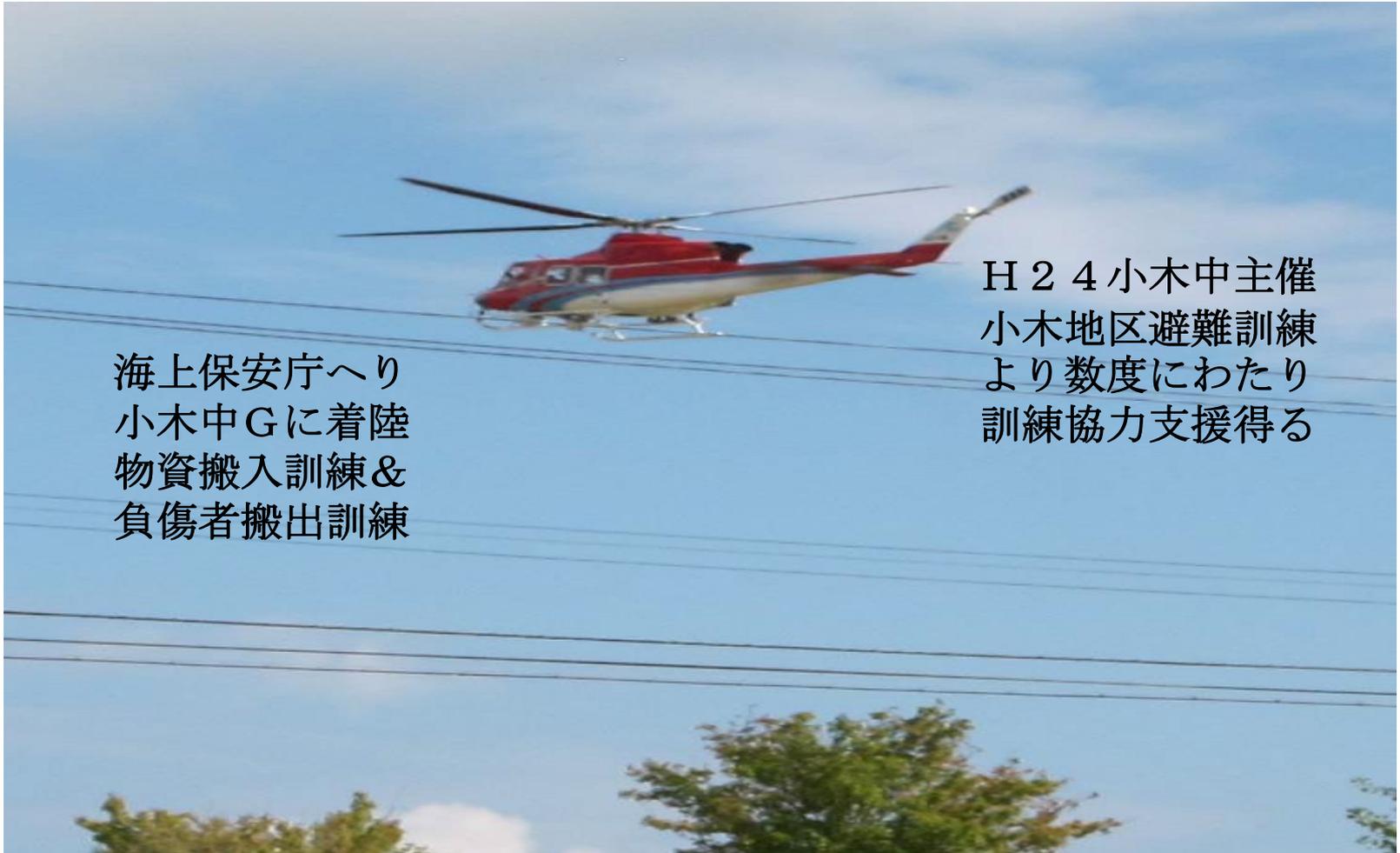
地震・津波 防災かるた



小木中を会場に 能登町総合防災訓練

海上保安庁へり
小木中Gに着陸
物資搬入訓練&
負傷者搬出訓練

H24小木中主催
小木地区避難訓練
より数度にわたり
訓練協力支援得る



小木地区避難訓練

主催 小木小中学校、地区自主防災組織

2011年 第一回 … 300名

2012年 第二回 … 850名

2013年 第三回 … 500名

2014年 第四回 … 650名

各小中学校を会場に、一斉避難訓練の日

2015年 第五回 … 850名

能登町総合防災訓練中心会場

2016年 第六回 … 485名

能登町防災総合訓練会場

年から能登町内
全小中校を会場に
登校日に位置づけ



中学生が運営スタッフと
して地区プラードを持つ

ペットボトル・誘導灯設置



避難場所への案内看板設置



2012年度には、魚やイカをかたどった**海拔表示板**を作成し、空き地や道路脇にたてました。

他地区から来た人にもわかります。



第六回 (2016年) 小木地区津波避難訓練



坂道や段差の所
は、歩くのも大変
です。



坂道や段差の所
は、押すのも大変
です。



お助け隊

お助け隊は2012
年度から始めていま
す。

防災カルタ



避難訓練
参加者と一緒に

段ボールの間仕切り



2011年夏避難
所体験から、皆さ
んに教えていま
す。



めった汁づくり めった汁配り

2012年避難訓練より
小木地区商店連盟の皆さん
が大鍋で海鮮減多汁を



海鮮減多汁には、
小木港船凍イカも
入ったとてもうまい
汁もの！

第6回 保小中高合同避難訓練

9分以内に高台上がれ

小木子ども津波避難訓練

海沿いに位置する能登町小木地区の子どもを対象にした一斉避難訓練が二十日、地元の小木小学校と小中学校であり、幼児から高校生までの百六十三人が九分以内の避難を目標に高台を目指した。

訓練は登校前の午前七時半、能登半島沖を震源とする地震により、大津波警報が発令された想定。海抜四二〇地点にある小木中には九十二人が集まり、町内会ごとに整列して安全を確認した。



高台にある小木中へ避難する子どもら＝能登町小木で

見守った大向わか子校長（左）は「子どもたち一人一人が、防災の意味を考えて成長している。地域を引っ張る存在になってほしい」と話した。

小木地区は、住宅が海か

ら一・園内、海抜一〇〇以下に集中。東日本大震災を機に、小木中を中心にハザードマップを作ったり、住民参加の津波避難訓練を実施したりしている。

（志村拓）

ハサ
シタモ 比國
能登・小木で津波
想定避難訓練
園児から高校生150人

能登町小木・中と小木保育園の一斉避難訓練は20日、同町小木地区で行われ、園児から高校生まで約150人が津波を想定して高台に移動した。

訓練は午前7時半に能登半島沖で地震が発生し、津波警報が発令されたとの想定で行われた。同地区での津波到達時間の目安となる9分以内に避難することを目標に、参加者は標高20以上の地点へ迅速に避難した。

暗闇の中で避難訓練

H28. 8. 10 (水)
能登・小木中

津波想定 生徒会が企画

津波被害を想定した能登町小木中の夜間避難訓練は10日、小木地区で行われた。夜の訓練は初めてで、全校生徒と保護者ら約60人が周りが見えにくい中でも津波から安全に避難する方法を確認した。



暗闇の中で避難する生徒
|| 能登町小木中

高台まで時間確認

訓練は生徒会が企画した。能登半島沖で地震が発生し、午後8時に大津波警報が発令されたとの想定で、生徒は家を出て高台にある小木小や小木中、最寄りの高台に避難した。避難路を示すために5月に生徒が設置した発光ダイオード(LED)照明400個が道を照らした。

学校では町内会、こと安否を確認し終えるまでの時間を計った。小木中体育館で開かれた反省会では「街灯が少なく、周りが見えなくて危なかった」などの意見が出された。生徒会は全

校生徒に訓練で気付いたことなどをアンケートに記入してもらった。今後、夜に避難する際の注意点などを話し合い、活動に生かす。

小木中では東日本大震災以降、防災教育に力を入れており、防災意識を高める体操を考案したり、雪が残る冬季に避難訓練を実施したりしている。生徒会の松本雄希副会長は「初めて夜に訓練をして何が起きるかわらなかったが、思ったよりもスムーズにできてよかった」と話した。

能登町中学生 防災フォーラム

平成28年12月14日(水)
共催・能登町危機管理室



避難訓練の検証・発表



中学生から能登町へ

町長さんへ

中学校生徒で
防災宣言作成



中学生による
各校区避難訓練の検証

校内でつなぐつなげる 音識を持つために

防災の掟

第一条 地域或の皆を守る強い心を持つよう。

第二条 自分に出来ることを考え毎日、大七刀に生きよう。

第三条 家族と避難場所を確認し自分の命を優先しよう。

第四条 絶対に一人の犠牲者も出さず防災活動をまじめに取り糸且もう。

第五条 人との出会いを大七刀にし命の大七刀さを糸継承していこう。

第六条 自然と向き合いながら生き安心して毎日を過ごせる町を築こう。

防災の掟

防災集会



先輩の思いを受け継いで

受け継いでほしいもの

- ① 避難訓練

理由・防災活動の中で一番実践的。地域一体とな、て行える。夜の避難訓練も行、てほしい。(いつでも対応できるようになるから、新しい発見ができるから)
- ② 防災カルタ・防災体操

理由・日常生活の中で自然に覚えられて、意識を高めることができるから。
- ③ 講話 (片田先生、青木先生、林先生、高橋さん)

理由・専門知識も知ることができ、とてもためになるから。活動するだけでなく講話を開き、私たちが今、どうするべきかわかる。
- ④ 交流

理由・もしものときを考え柳田中と交流をしてきた。今年は、能登町内全中学校とも交流してほしい。防災について話すことで自分たちの意識も高まる。
- ⑤ 応急処置講習会

理由・大人にな、ても役立つかもしれない。一人一人がマスターしてほしい。

幼い

熊本へ義援金を募る



被災地に思いを
寄せる
つながる

義援金を町長さんに託す



防災活動は、私達に、色々な事を教えてくれました。

小木から一人の犠牲者も出さないようにするために

- できることは何かを考えられる自分になっていた。
- 皆で、どうすれば子どもからお年寄りまで分かってもらえる体操を作れるか話し合う楽しさを知った。
- 面倒だな、興味無いなという、自分の心が成長し、優しさが大切だと思えるようになった。
- 修学旅行の防災学習が、自然の怖さや命の重みを教えてくれた。
- 地域の人から、他の地域の人たちまで、人と人がつながっていく嬉しさを知った。
- 今ここにいられる事や生活に感謝の気持ちをもった。

つなぐ つながる 広がる思い

小木から
発進

他地区の
中学生と

被災地と

犠牲者を
出さない
ために

町の人々
と

未来に向けて 自助・共助(近助)

地域から一人の犠牲者も
出さないために

○学校と地域が一体となって取り組む防災

啓発活動・避難訓練・避難所体験/運営訓練

避難所運営連絡会(学校、地域、行政)

・顔の見えるふるさとづくり

普段からの学校と地域との交流

・未来を生き抜くひとづくり

10年たてば大人に、10年たてば親に

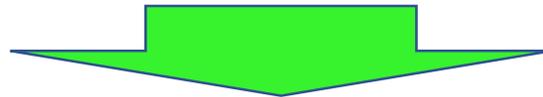
中高生



未来の担手

- 地域を知り、地域を愛し、地域の恵みを享受し続け、そこに住み続けるための姿勢
- 持続可能な地域を考え、めざし、地域づくりに取り組む姿勢 = **主権者としての姿勢**

自分の命を大切に、
他者の命にも思いを至らす



防災への取り組みが目指すところ

信頼によって、寄りそい立つ
皆に優しい地域づくり



防災とは

地域に住み続けるために
自然と上手く付き合うための

お作法

- ・ 自然の驚異をしなやかにやり過ごすことができる災害に強い地域づくり
- ・ 地域防災／お作法を地域に啓発する先頭に立つのは、地域の中・高生だ

地域防災力の推進は 持続可能な地域づくりに不可欠

その一端を担うのは、中高生
その取組は、地域の活性化に
大きく貢献・資するもの

以上は、東京大学片田教授と高知県黒潮町畦地前教育長の対談並びに両氏よりいただきました、数多くのご指導ご助言、東北被災地でお会いした児童生徒はじめ多くの皆様からいただきました御思い、ご助言元小木中学校大句校長、廣澤教諭（現穴水中学校長）からの資料提供県立輪島、同門前高校等の活動等を基にまとめ、ご紹介させていただいたものであることを記させていただきます。

第2部 学校現場での実践事例共有

①岩手

釜石市立釜石東中学校

校長 佃 拓生 様

防災学習・震災伝承実践交流会2024

鵜住居で生きる 夢いだいて生きる
Be alive in Unosumai, Live with your Dreams.



岩手県釜石市立釜石東中学校
Kamaishi-Higashi J.H.S.



令和6年9月7日(土)

2000

2011

2024



June 6

August 5

July 4

出典：Google Maps



学校概要

2017

- ・平成21年 釜石市防災モデル校
- ・平成23年 **東日本大震災津波**により旧校舎全壊
各学年2学級（特支1）全校212名
- ・平成29年 仮設校舎（5年間）を経て、現在の校舎へ移転
- ・令和元年 旧校舎跡地でラグビーW杯2019
★学校公開研究会
～児童生徒が主体的に学び行動する防災学習の在り方～
◆**台風19号接近に伴い、避難所開設**
- ・令和6年 創立50周年記念式典
各学年1学級（特支2）全校85名
◆**台風5号接近に伴い、避難所開設**

April 1

2017

だいいちかていかしつ
第1
家庭科室
Home Economics Room1

防災備蓄倉庫

April 1

鵜住居で生きる 夢いだいて生きる

Be alive in Unosumai, Live with your Dreams.

- ◇本校卒業生の聞き取り調査では、防災学習の内容よりも、「自ら主体的に考えて活動したこと」が強く記憶と印象に残っているという。
 - 中学生自身の探究的な活動や主体的な学びこそが、緊急時に生きて働く力として発揮されるのではないか。
- ◇震災伝承は、地域に頼ることもできる。教職員は、経験していないから、地域を知らないから、生徒と一緒に主体的に学ぶことで命を守る取組ができる。
 - 経験のない教師が自ら探究的に学び、その姿を生徒に見せたらどうか。
 - 「今の防災教育なら、語れる。」そんな教員が増えたらどうか。
- ◇計画にある内容は繰り返し必要なものだけ。予定にない内容にも取り組める弾力的な計画にすると、新たな取組が生まれやすい。
 - 地域や学校の状況によって、年度によって、内容は同じでよいか。
 - 前例踏襲のカリキュラムは、震災記憶を風化させると心得たい。



岩手県釜石市立釜石東中学校

Kamaishi-Higashi J.H.S.

令和6年9月7日（土）



「強く生き抜く力の育成」
～いのちの教育の推進～

～鶴住居で生きる 夢いだいて生きる～
釜石市立釜石東中学校 防災教育年間計画【R6概要】

釜石東中学校 避難三原則

1. 想定にとられるな
 2. 置かれた状況で最善を尽くせ
 3. 率先避難者となれ
- そして、助けられる人から助ける人へ



<防災教育「EAST-レスキュー」を通して育てたい生徒像>

- ① いのちを大切にする生徒
- ② 震災・津波の体験を語り継ぐことのできる生徒
- ③ これからの釜石の再生・復興に力を尽くし、未来を創ろうとする生徒



※ 各教科等が「てんでんこ」に、横断的な学びを工夫する。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|--------|--|----|---------------------------------------|----|---|----|---|-----|----------------------|----|----------------|---------------------------------|-----------------------------|
| 全校・縦型組 | 小中合同① 避難訓練 (火事) | | 小中合同② 下校時避難訓練 (地震・津波) | | 小中合同③ 総合防災訓練 (地震・津波) | | 小中合同④ 避難訓練 (火事) | | 釜石市 地震・津波 避難訓練 | | | | |
| | 生徒会① 防災オリエンテーション | | 生徒会② 防災グッズ製作 (ボランティア) | | 生徒会③ スタジアム清掃 (絆の日) | | 生徒会④ いつみ集会 | | 生徒会⑤ 3.11大階段合唱 | | | | |
| | 根浜再生活動① (清掃) | | 根浜再生活動② (植栽) | | 根浜再生活動③ (植栽) | | 3.11 今、私たちが伝えたいこと 震災から学ぶこと | | | | | | |
| | EAST-レスキュー East: 東中生 Assist: 手助け Study: 学習する Tsunami: 津波 | | ボランティア① 防災まち歩き 防災マップ更新 (各地区) | | ボランティア② 緊急時対応体験 救命救急訓練 避難所設営 非常持ち出し袋 防火練習・土嚢 | | ボランティア③ 防災復興リサーチ 地震・津波 風水害 各被災地の現状 その他 | | | | | | |
| | 1学年 防災講話 (宝来館・未来館) | | 2学年 東京都荒川区 防災Jrリーダー交流 | | 3学年 福岡県大野城市 中学生交流 | | 1学年 炊き出し体験 | | 2学年 避難者誘導體験 | | 3学年 避難所運営体験 | | 1学年 防災リサーチ 「避難を妨げる心理」 |
| 各学年 | 3学年 避難所運営ゲーム HUG | | 2学年 震災復興列車 (三陸鉄道) | | 3学年 てんでんこレンジャー 派遣事業 | | 3学年 防災ポスター卒業製作 釜石祈りのパーク整備 | | | | | 3学年 防災ポスター卒業製作 釜石祈りのパーク整備 | |

2017



September 27

2018



November 14

2021

Higher than here!!



より高い所へ!!

ハルビエゴキニ



設定した理由
東日本大震災（2011.3.11）での東部の地震の高さから
私たちが考えた今後の想定の高さです。

だが、想定にとらわれるな！
いつでも自分の命を守る行動を！

東日本の震災の経験で「避難するときに逃げた方が助かりやすくなる人になること」について考える機会がありました。東日本では、震災の時は自分が避難するという「てんでんこ」の考え方を重要としながらも、「助けられる人から助ける人へ」を目指して防災に取り組んでいます。この経験のことを知らない防災者や外国人の方々に「避難場所」と、「どこまで避難すればよいのか」ということを分かってもらうために、この避難場所と人助けの壁を引くことを考えました。避難のてんでんこで「てんでんこインシナーは「自分の命を助けてあげて！」と書かれています。いつか来るかは分からないけれど、また大きな地震が起きたとき、東日本は防災避難所として行動します。震災当時の光景がはつとくられたように、避難するまで「助ける人」になりたいです。この経験のみんなが助かってほしいです。

避難三原則 ①「想定にとらわれるな」②「助けられる人から助ける人へ」③「率先避難者となれ」そして、助けられる人から助ける人へ
2021年3月 佐石橋中学校の学生生徒一同

March 31

2023

May 24



2023

June 8





2023



September 28

静止画分析 動画分析

集計期間

2024-03-03 ~ 202...



2024/3/3 8:33 時点 ~ 2024/3/3 9:00 時点

混雑ランキング

ログ

- 100 km/h 以上
- 80 ~ 100 km/h
- 60 ~ 80 km/h
- 40 ~ 60 km/h
- 20 ~ 40 km/h
- 10 ~ 20 km/h
- 3 ~ 10 km/h
- 0 ~ 3 km/h
- 0 km/h
- 速度不明

10 m © Agoop

避難場所



指定緊急避難場所

6拠点避難所, ...

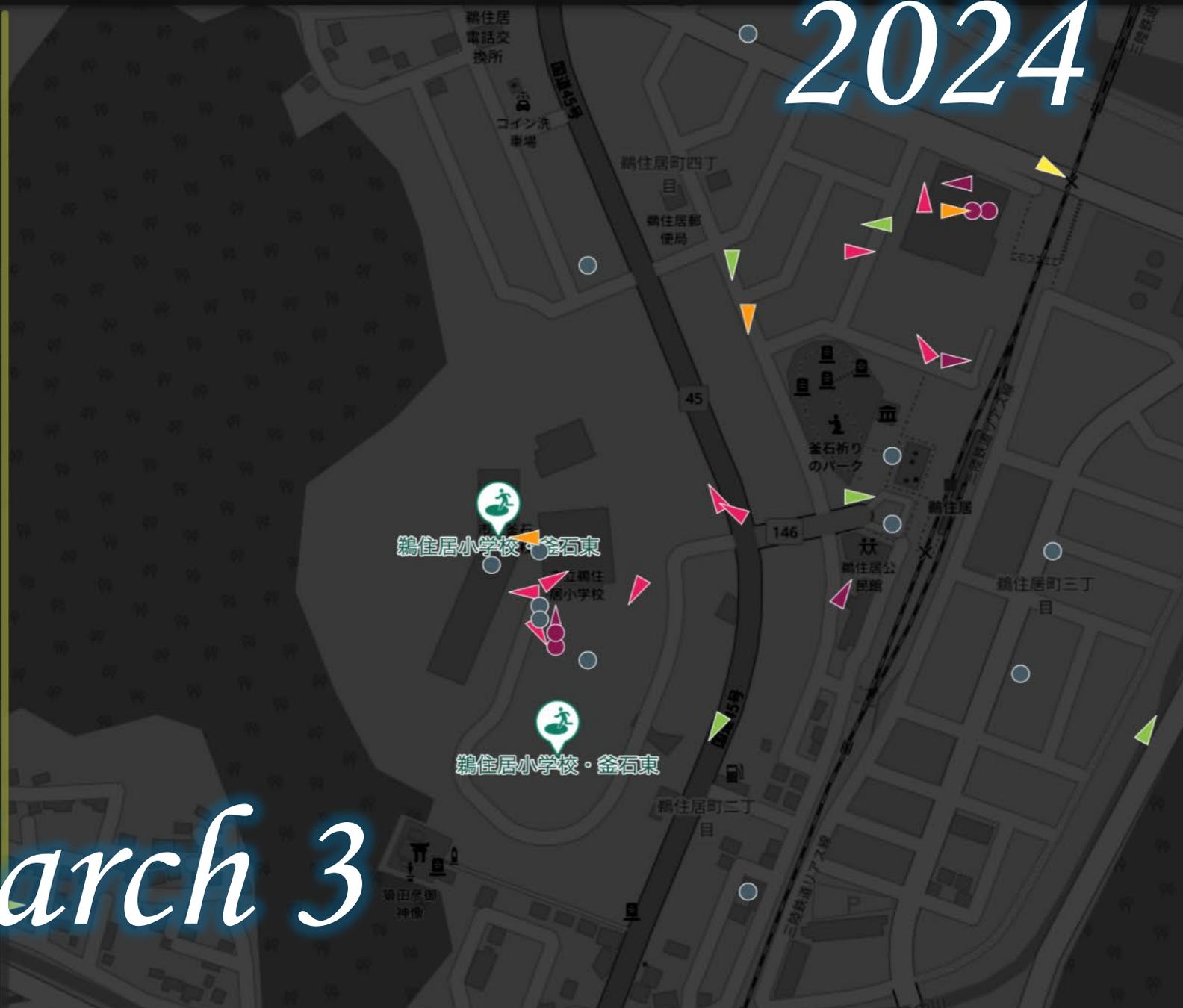
津波浸水深

ハザードマップ

建物

2024

March 3



2024

釜石市防災市民会

命を守る

釜石市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の大津波に
命を喪った。その悲しみが、癒えることなく残っている。
しかし、古来より、先人たちが、度重なる災害や戦災をたくましく乗り越えてきたが、
今、私たちは、ふるさと復興への道を歩み続けている。
自然は恵みをもたらす、その恵みを享受してまたこの地で安全に暮らし続けたいためには、
海、山川と共に生き、その恵みを受けとるべきであり、多くの教訓を生かしていかなければならない。
また起こるであろうあらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。
未来の命を守るために、私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。
釜石市 平成21(2009)年3月11日

March 8

釜石東中学校区 防災マップ

令和5年度 釜石市立釜石東中学校 第3学年制作



・釜石東中学校の令和5年度3年生が、総合的な学習の時間に地域の方と「防災まち歩き」を行い、調べたことを地区ごとに「防災マップ」にまとめました。

・地域の方々に私たちが勉強した鶴住居町の防災について知ってほしいです。また、始めて鶴住居町に訪れた人たちにもこの「防災マップ」を使って私たちの地域について知ってほしいと思い制作しました。スマホでQRコードを読み取ってみてください。

基盤地図情報（国土地理院）の一部を加工して作成

スマホをかざして
防災まち歩きを
しよう

1 km



釜石市立釜石東中学校 避難三原則

1. 想定にとらわれるな
2. 置かれた状況で最善を尽くせ
3. 率先避難者となれ

そして、助けられる人から助ける人へ



総合的な学習の時間
『防災まち歩き』

調査した日：令和5年7月6日(木)
調査した地区：鶴住居、片岸、箱崎、岡石
日南、新川原、新田神ノ沢
調査した人数：29人

R5 釜石市立釜石東中学校 第3学年

釜石東中学校の
防災まち歩きとは

自分たちの住む地域を改めて注意しながら歩くことで、普段気づかない地域の良さ(命を守るためにあるもの)や課題(危険なもの、場所)を見つけるための防災学習です。

私たち釜石東中学校の3年生は、令和5年度「総合的な学習の時間」に、地域の方にご協力いただきながら「防災まち歩き」を行いました。

釜石東中学校の
3年生からメッセージ

私たちが「防災まち歩き」を通して学んだことを後輩や地域の方にも伝えたいと考え、「防災マップ」を制作しました。

地域の中の避難所・防災施設・危険箇所などを探し、災害を他人事ではなく自分も家族も被災することがあると意識し、一人ひとりが災害に備えることが大切だと考えます。

このマップを通して鶴住居の防災について知ってほしいです。

防災まち歩き

鶴住居地区

命を守るためのもの①



この場所は、津波や大雨の時に水がたまるように土地が低くできている。そのため、家なども建てずにある土地。

命を守るためのもの②



水門

津波や増水の際に水をせき止める。

危険なもの①



山からの落石がありました

危険なもの②



- 上流から流れてきた石が溜まっている。
- 一水があふれやすい
- 実際に雨の日にあふれた。
- 木が生えていて水がせき止められてあふれることも
- 一そのため、土砂や木の撤去が必要

津波避難時の素早い避難のため



津波避難時は、電車が止まるので線路の上を走って避難すれば、素早く避難ができると考えられるが、まだ許可は下りていない。

～石碑、釜石市復興スタジアム～



- 東日本大震災の記念碑が建てられていた
- この石碑は東日本大震災で亡くなった東中学校の事務さんの奥さんが建てたもの
- 「自分の命を守るために逃げて」と書かれている

調査してわかったこと

- 鶴住居地区では、大雨が降ると土砂災害が起こることがある。
- 避難所がどこにあるのか把握するという備えが必要だと考えられる。
- 自分たちが思っているよりも危険なものが身近にあることがわかった。

ふり返り

- ていねいに教えてもらったので、嬉しかったです。
- 防災が起こったときは、近くの住宅の用水路が増水して、近くの神社に避難していたことが分かった。
- 防災について、意外なことだったり、なるほどなことであったり、知らなかったことや知りたかったことが色々知れたし、地域のことで興味深くて、とても楽しかったし、とても良い学習になった。

釜石市 総合 防災 マップ 保存版

| | | | |
|------------------|-----|---------------------------------------|-------|
| 👤 はじめに | 1 | 🔥 火災対策について | 12 |
| ⚠️ 警戒レベルを用いた避難情報 | 2 | 🌊 津波対策について | 13・14 |
| 📄 防災気象情報 | 3・4 | 🌐 後発地震と津波防災地域づくり | 15・16 |
| 🏠 わが家の防災対策 | 5・6 | 🏠 避難施設一覧 1~3 | 17~19 |
| 🎒 非常用持出品および備蓄品 | 7 | 📄 要配慮者利用施設一覧 | 20 |
| 🚶 避難行動ガイド | 8 | 🗺️ 釜石市全体図 | 21・22 |
| 🌊 洪水・浸水害について | 9 | 🗺️ 釜石市総合防災マップ | 23~66 |
| 🏠 土砂災害について | 10 | 📄 情報収集方法 災害用伝言ダイヤル 防災関係機関連絡先・奥付 | 巻末 |
| 🌐 地震対策について | 11 | | |

釜石市ウェブ版
ハザードマップ



釜石市 防災教育の手引き



釜石市教育委員会

令和6年3月

3.11 今、私たちが伝えたいこと

～鵜住居で生きる 夢いだいて生きる～

「いつかこの海をこえて」

作詞作曲 ミマス

(MOMI-118)

うれしさも悲しみも 大切な思い出も
のこらず輝いて あすを照らしてる
すみわたる陽がそそぐ ふるさとの風景に
また会えるその日をつよく信じて
いつかこの海をこえて 僕たちは舟をだそう
出会いにあふれる ひろいひろい世界へ
いまも心にひびく 友の言葉を胸に
希望の道をすすもう
るり色の海へ

夕風と朝焼けが なんとなくりかえしても
目をとじればそこに なつかしい笑顔
いつの日もそばにいる たとえ離れていても
だから前を向いて 歩んでゆこう
いつかこの海をこえて 僕たちは舟をだそう
手と手をむすんで 信じあえた日々を
いつも心に抱いて 夢の灯りをともし
希望の道をすすもう
るり色の海へ

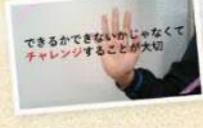


釜石市立釜石東中学校 避難三原則

1. 想定にとらわれるな
 2. 置かれた状況で最善を尽くせ
 3. 率先避難者となれ
- そして助けられる人から助ける人へ

家族の避難場所

（Blank space for family evacuation location notes）



2024



May 10

防災学習・震災伝承実践交流会2024

鵜住居で生きる 夢いだいて生きる
Be alive in Unosumai, Live with your Dreams.



岩手県釜石市立釜石東中学校
Kamaishi-Higashi J.H.S.



令和6年9月7日(土)

第2部 学校現場での実践事例共有

②宮城

宮城県多賀城高等学校

教諭 津守 大智 様

3.11メモリアルネットワーク
防災学習・震災伝承実践交流会2024

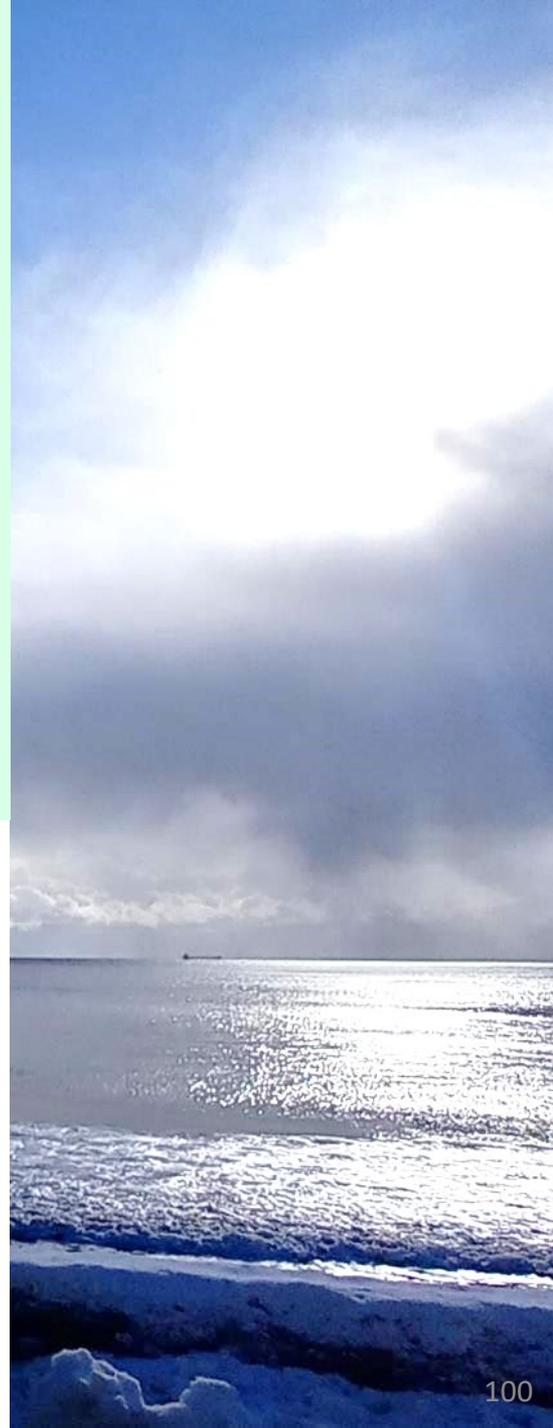
学校現場での 実践事例共有

2024年9月7日(土)
@ 東京エレクトロンホール宮城 602会議室



宮城県多賀城高等学校
Miyagi Prefectural Tagajo High School

教諭 津守大智



自己紹介

つ も り だ い ち
津 守 大 智

- 数学科教諭(5年目)
- 災害科学科9回生
1学年担任
- SSH探究部
- 山岳部顧問
- 防災士
- 宮城県防災指導員
- 災害時学校支援
チームみやぎ



Miyagi Prefectural
Tagajo High School

1996. 10 福島県本宮市生まれ

2011. 3 東日本大震災 (中学2年生 14歳)

2018. 3 防災士 取得

2019. 4 宮城県宮城野高等学校 非常勤講師 (数学)
2020. 3

2019. 10 令和元年東日本台風 本宮市にて災害ボランティア

2020. 4 宮城県高等学校教諭(数学)採用/宮城県涌谷高等学校 着任

2021. 4 「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」 チーフ
2023. 3

2021. 10 宮城県防災指導員 取得

2023. 4 「地域とともにつくる魅力ある県立学校支援事業」 チーフ
2024. 3

2023. 12 災害時学校支援チームみやぎ 名簿登載

2024. 1 災害時学校支援チームみやぎ 令和6年能登半島地震 派遣

2024. 4 宮城県多賀城高等学校 着任

Agenda

- 01 宮城県涌谷高等学校の実践事例
- 02 宮城県多賀城高等学校の実践事例
- 03 災害時学校支援チームみやぎの実践事例
- 04 防災学習の効果

Agenda

01 宮城県涌谷高等学校の実践事例

02 宮城県多賀城高等学校の実践事例

03 災害時学校支援チームみやぎの実践事例

04 防災学習の効果

地域との つながりが強い

- ・ 地元出身の生徒が多い
- ・ 卒業後も地元に残る生徒が多い

小規模 就職する生徒が多い

- ・ 全校生徒238名(令和4年12月)
- ・ 就職6割 / 進学4割

地域連携型学校防災 体制等構築推進事業

- ・ 宮城県教育委員会
- ・ 令和3, 4年度指定
- ・ テーマ「当事者意識」



涌谷高校の実践事例1

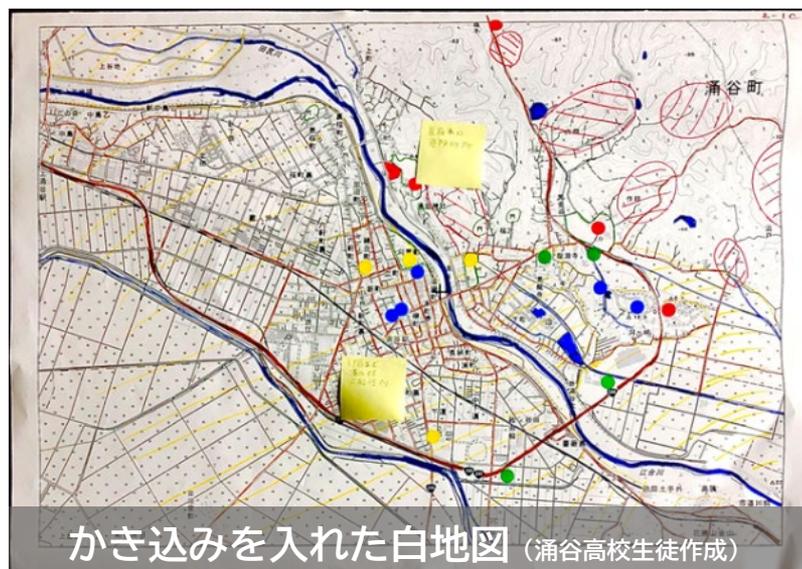
災害図上訓練DIG

- Disaster Imagination Game
- 1,2学年全員参加
- 自主防災組織14名、
涌谷町総務課2名も参加・助言
- 講義「涌谷町の災害リスク」
- ハザードマップを見ながら
白地図にかき込み

知る

考える

動く



涌谷高校の実践事例2

避難所運営ワークショップ

- ・ 齋藤幸男氏 (防災士・元石巻西高校長)
- ・ 全校生徒参加
- ・ 自主防災組織12名、
涌谷町総務課2名も参加
- ・ 教職員も参加
- ・ 講義「避難所運営の実際」
- ・ 避難所運営組織図の作成

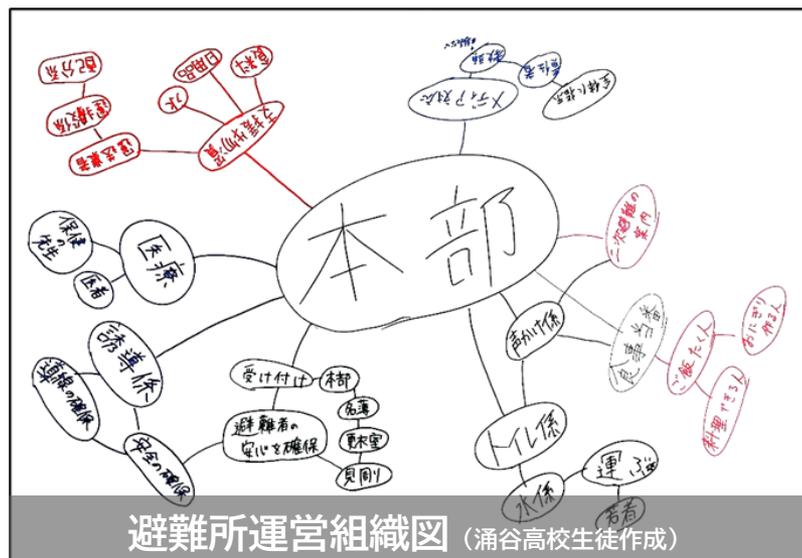
知る

考える

動く



地域住民とも共有 (涌谷高校職員撮影)



避難所運営組織図 (涌谷高校生徒作成)



涌谷高校の実践事例3

涌谷町総合防災訓練

- ・ 主催: 涌谷町総務課防災交通班
- ・ 会場: 涌谷高校体育館
- ・ 想定: 江合川氾濫
- ・ 有志生徒35名参加
(31名が宮城県防災指導員)
- ・ 自主防災組織、涌谷町役場
など合計200名ほどが参加

知る

考える

動く



涌谷高校の実践事例4

地域ボランティア活動

- ・「涌高ふれあい隊」
有志のボランティア活動団体
- ・地域でのボランティア活動
青い鯉のぼりプロジェクト、
おらほのベンチ作製 など
- ・地域での活動発表
→地域における自己有用感・
地域とのつながり



青い鯉のぼりプロジェクト (涌谷高校職員撮影)



わくや地域福祉フォーラム (涌谷高校職員撮影)



生徒の姿

- 命と日常の有り難さの実感 「日常は当たり前ではない」
- 防災を「自分事」に 「助けられる側から助ける側へ」
→ 防災学習がきっかけで進路(目標)を決めた生徒も

教員の姿

- 教員も防災を「自分事」に
- 地域人材と関わることでの
生徒の人的成長を実感

地域の姿

- 生徒からの学びを生かす
- 若者が地域防災に参加することで、住民も積極的に



「どう継続していくか」問題

「誰がやるか」問題

- ・ 「涌高ふれあい隊」の部活動化をお願いしたが…
- ・ 指導案や授業スライドはすべて残してきたが…
- ・ そもそも防災学習の意義・効果を理解してくれないか…

「お金はどうするか」問題

- ・ 大川小見学バス代や外部講師招聘にかかる費用は…
- ・ 予算が出る事業に申し込む手もあるが…
- ・ お金がなくてもできる活動もあるが…



Agenda

01 宮城県涌谷高等学校の実践事例

02 宮城県多賀城高等学校の実践事例

03 災害時学校支援チームみやぎの実践事例

04 防災学習の効果

災害科学科

- ・命とくらしを守る強い志
- ・リーダーシップ
- ・自立(自律)

大規模 進学する生徒が多い

- ・全校生徒833名(令和6年8月)
- ・進学9割以上 / 就職1割未満

外部との連携・交流

- ・SSH (スーパーサイエンス
ハイスクール)
- ・ユネスコスクール
- ・産官学との連携



多賀城高校の実践事例1

学校設定科目

- 「くらしと安全A・B」
(普通科・災害科学科)
→ 防災を軸とした保健と家庭
(衣食住、健康、福祉など)
→ DMATによる講義、外部講師
による災害図上訓練DIG 等
- 災害科学科のみの科目も
「自然科学と災害A・B」 等



多賀城高校の実践事例2

巡 検

- 災害科学科
多賀城・七ヶ浜/栗駒・気仙沼/
浦戸/石巻・女川/
つくば/有珠山・洞爺湖
- 「本物」を体験的に学び、
防災の意識付けを強化し、
「防災・減災に関する課題と
解決策」を考えるきっかけに



多賀城高校の実践事例3

津波伝承まちあるき

- ・ 災害科学科2年生・生徒会役員
- ・ 今年度は9回実施予定
- ・ 2013年「津波波高標識」設置
- ・ 2014年まちあるき開始
- ・ 津波伝承「まち歩き」MAP

→先輩から代々受け継いできた
都市型津波の恐ろしさと教訓
を伝える「伝災」活動



まちあるき伝達講習会（多賀城高校職員撮影）



津波伝承「まち歩き」MAP（多賀城高校生徒作成）



多賀城高校の実践事例4

課題研究

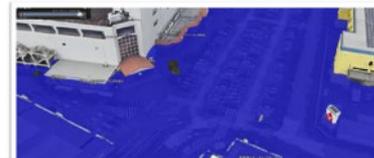
- 2年次グループ探究活動
(普通科・災害科学科)
- 巡検やフィールドワークから
課題設定、外部連携し探究
→ “実働” して地域・災害に
おける諸課題を “自分事”
として捉える
→ 国内外の学会等で発表



Global Link Singapore 2024 (多賀城高校職員撮影)

研究1 津波シミュレーション

- 「Google Earth」を活用した津波再現
- ストリートビューにおける人の視点からの
水位変化のシミュレーションが可能



3Dモデルを活用した災害伝承 (生徒作成)

多賀城高校の実践事例5

外部との連携・交流

- 東日本大震災メモリアルday
→全国各地の防災を学ぶ
高校生が参加（R5は146名）
→防災に関する講話・WS
→探究ポスターセッション
- JR東日本合同研修会、海保・
日赤合同訓練、各種交流会 等
→外部と交流し視野を広げる



多賀城高校の取組の成果

生徒の姿

- 学習意欲の向上と進路実現
 - 教員以外の大人からの評価による**自己有用感**
 - 進学先でも**継続研究**を
 - **多様な学習**がきっかけで**進路選択**
 - 関西大学社会安全学部、防衛大学校など
 - **命とくらしを守る人材**に

社会に対して

- **生徒のアイデア**が実際に**防災・減災**に活用される
 - 津波伝承まちあるき：
住民依頼で波高標識追加
 - JR東日本合同研修会：
避難方法が伝わりづらいという意見から、車両内に避難案内を設置
 - **社会における自己有用感**

多賀城高校の取組の課題

「どう質を高めるか」問題

- 課題研究
 - 「どう “とがる” か」
 - Scienceには限界が…
 - Technology, Engineering
の視点で社会とつなぐか
 - 生徒の関心が前提
- 巡検
 - 効果的な内容は…
 - 効果的な順番は…

「どう継続していくか」問題

- 多様な学び
 - 生徒・教員が多忙
キャパシティが…
 - 行事の精選必要
 - 持続可能なものへ
- 災害科学科, SSH
 - 災害科学科以外の教員も
 - 全体で回せる仕組みが
必要

Agenda

- 01 宮城県涌谷高等学校の実践事例
 - 02 宮城県多賀城高等学校の実践事例
 - 03 災害時学校支援チームみやぎの実践事例**
 - 04 防災学習の効果
-

災害時学校支援チームみやぎの概要

大規模災害発生時、
被災地で予想される
学校教育の混乱解消に
向けて、被災自治体の
要請に基づき教育復興
を支援するチーム

- ・宮城県教育庁
保健体育安全課
- ・令和元年発足
- ・教諭/養護教諭/
事務職員等 157名
(令和6年4月)

石川県鳳珠郡能登町へ
第1次先遣隊・
第1～6クール
支援チームとしての
派遣は今回が初



災害時学校支援チームみやぎの実践事例

授業「東日本大震災と東北の今」

- ・ 東日本大震災の教訓を生かし、被災自治体の教育復興を支援
- ・ 心のケア、時間・場所の確保、マンパワー不足 が課題
- ・ 能登町立能都中学校での支援
- ・ 1月24～26日(学校再開1月22日)
- ・ 国語科A先生に依頼され授業を
→ 「東日本大震災と東北の今」



第1クールメンバー (浦谷高校職員撮影)



中学生への授業 (能都中学校職員撮影)



生徒の感想（1年生女子）

思いました。私は地震がおこっているのに
こわいよりワクワクした気持ちが大きくて、自
分はヤバイ人なのかなと思ったけれど、津
守さんも似ているような事を言っていて、安心
したし、変じゃないんだなと思えました。次は魚を食パンにまいたさい!!



災害時学校支援チームみやぎの取組の成果

心のケア

- ・授業のねらい「3.11当時中学生だった自分の気持ちと13年経ったいまの自分の気持ちを伝えることで、安心感を与える(与えたい)」
 - 非日常での正常な反応
 - 生徒の感想には「安心感」が
 - 教職員も生徒・自身の心理状態理解
 - 現状理解による安心感
- ・振り返り用紙の多くに被災体験が

マンパワー

- ・学校支援にあたった時間45%
 - 片付け・清掃・給食配膳
 - 学校再開業務等で忙しい職員をサポート
- ニーズに合わせた支援

災害時学校支援チームみやぎの取組の課題

もっと“よい”支援ができたのでは

授業における課題

- ・一部の生徒が東日本大震災と令和6年能登地震を比較する生徒が
 - 比較しないように、東日本大震災の話だけにしていたが…
 - 数字等で比較するものではないことを強調しておくべきだった

生徒・教職員との関わりにおける課題

- ・もっと話を聴く時間があれば…

今後の関わり

- ・特に心のケアにおいて継続的な支援が必要
 - 気持ちの押しつけにならないか…
 - 卒業式に祝電
 - 今後どんな支援ができるか

Agenda

- 01 宮城県涌谷高等学校の実践事例
- 02 宮城県多賀城高等学校の実践事例
- 03 災害時学校支援チームみやぎの実践事例
- 04 防災学習の効果**

防災学習のプロセス

過去に 学ぶ

- ・まずは事実を知る
- ・防災・減災は伝災から

未来を 考える

- ・「災間」を生きる
- ・未来の命と暮らしを守る

今 行動する

- ・当事者として行動する
- ・アップデートし続ける

探究学習、教科学習、教科外学習など
あらゆる学習につながるのでは



防災学習の効果

実用的効果

自分と他者の命を守る知識・意識・判断・行動を養う

社会的効果

防災学習を核に、学校が地域・社会と協働

- 学校：地域・社会との学び合いによる教育的効果
- 社会：学校とともに学びレジリエントな地域・社会へ
(子ども・若者は大人を動かす力がある)

陶冶的効果

防災学習が「在り方生き方」に資する

- 命とくらしを守るという全員に共通する目標
- 人と“かかわる” / よりよい生き方を“もとめる” /
社会での役割を“はたす” (みやぎの「志教育」)

こんな教員でありたい

これからの社会をつくっていく子ども・若者と
社会をつなぐ存在でありたい

様々なことにアンテナを張り、自身も学び続け、
社会とつながるきっかけ・場を設けていきたい



第2部 学校現場での実践事例共有

③福島

福島県立あさか開成高等学校

教諭・国際部 猪俣 由美 様

教諭・国際部 目時 千夏 様

令和6年度
震災と復興を語り継ぐ
語り部交流活動について



福島県立あさか開成高等学校

本日の発表

1

震災学習・交流活動のはじまり

2

県内外・海外の高校生との交流

3

紙芝居・語り部活動の取り組み

4

防災・減災につながる教育活動

はじめに・・・

福島県

1:750,000
0 10 20 30 km



あさか開成高等学校

福島第一原子力発電所



2011年 当時の郡山市は・・・



ウィキペディアより

震災直後2, 500人を超える被災者を受け入れ、福島県最大の避難所に・ビックパレット福島



郡山市内の高校の体育館も避難所に・教員は避難所運営



郡山市内の高校の校舎は他校のサテライト校に・同じ敷地内で学校生活



福島県内唯一の国際科学科 1995年創立

校 訓

o iri

(国際性豊かな人間)

Cre ive iri

(創造性豊かな人間)

iri

(心豊かな人間)



2020年までの国際科学科としての3つの取り組み



オーストラリア研修



国際理解講演会

留学生受け入れ

コロナ禍でも活動を止めない

国際科学科としてできることは・・・



異文化交流 →
他者との交流

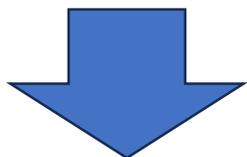
他校生との交流、
世代間交流

自分のまわりの
地域との交流

福島に学ぶ・福島を知る
震災学習

あさか開成（福島）

だからできる探究学習



地域の課題解決



震災学習

～語り部事業～

知る

震災復興スタディ
バスツアー

国際理解講座

語り部講話

伝える

NPO法人
富岡町3.11を語る会
とのつながり

紙芝居

NPO法人
しんせい
とのつながり

防災ワークショップ

2020年以降の新しい取り組み

1年生全員



東日本大震災・原子力災害伝承館での震災学習

NPO富岡町3. 11を語る会「語り部講座」

NPO富岡町3. 11を語る会とのつながり「紙芝居語り部アワー」参加

NPOしんせいとのつながり「山の学校 防災ワーク」参加

震災と復興を伝える語り部交流 県外へ2022



1.17 希望の架け橋・
神戸港震災メモリアル
パーク



兵庫県立淡路高等学校・
北淡震災記念公園



京都光華高等学校



大阪明星高等学校

震災と復興を伝える語り部交流 県外へ2023



長崎原爆資料館ガイドツアー



ふくおか市民政治ネットワーク



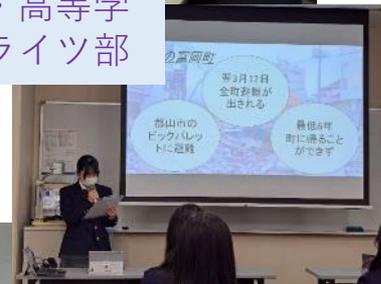
広島盈進中学・高等学校
校ヒューマンライツ部



長崎活水高等学校
校平和学習部



ひろしま紙芝居村



広島崇徳高等学校
新聞部



海外の大学生・高校生とのオンライン交流

オランダ ・ 郡山市 姉妹都市
ハンガリー ・ 郡山市ホスト

タウン
インドネシア

台湾

タイ



福島^の課題
原発事故
風評被害
海洋放出

タイ^の課題
大気汚染
渋滞
いじめ

令和5年度震災と復興を未来につむぐ高校生語り部事業における交流活動



タイ研修



①KVIS交流 * 高校生に伝える

KVISは将来のタイを担う優秀な人材を教育している先進的な高校。KVISの生徒たちとお互いの国や学校について話し、交流を行った。



福島の魅力を紹介



②JETRO & JICA交流

タイと日本のつながりや日本の国際協力について聞く。福島に対してネガティブなイメージはなく、福島の果物やいわきの海産物が人気。



震災と復興を伝える語り部交流 2024～

8/5～7



広島盈進中学・高等学校
ヒューマンライツ部



浜通り語り部研修



ひろしま紙芝居
広島崇徳高等学校
新聞部



郡山市 防災講座



郡山消防署 地震・
煙体験

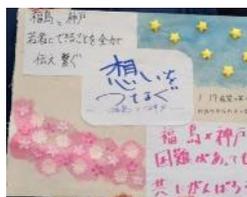
持続可能な取り組みへ

伝える



富岡町3.11を語る会主催
「高校生紙芝居による伝承
活動」参加

忘れない



郡山女子大学短期大学部・
郡山市主催「復興の灯火
プロジェクト」参加

～ 防災・減災につながる教育活動～
災害から命と暮らしを守る



持続可能な開発目標

いいなのひ

毎月 17 日前後 SDG s d a y



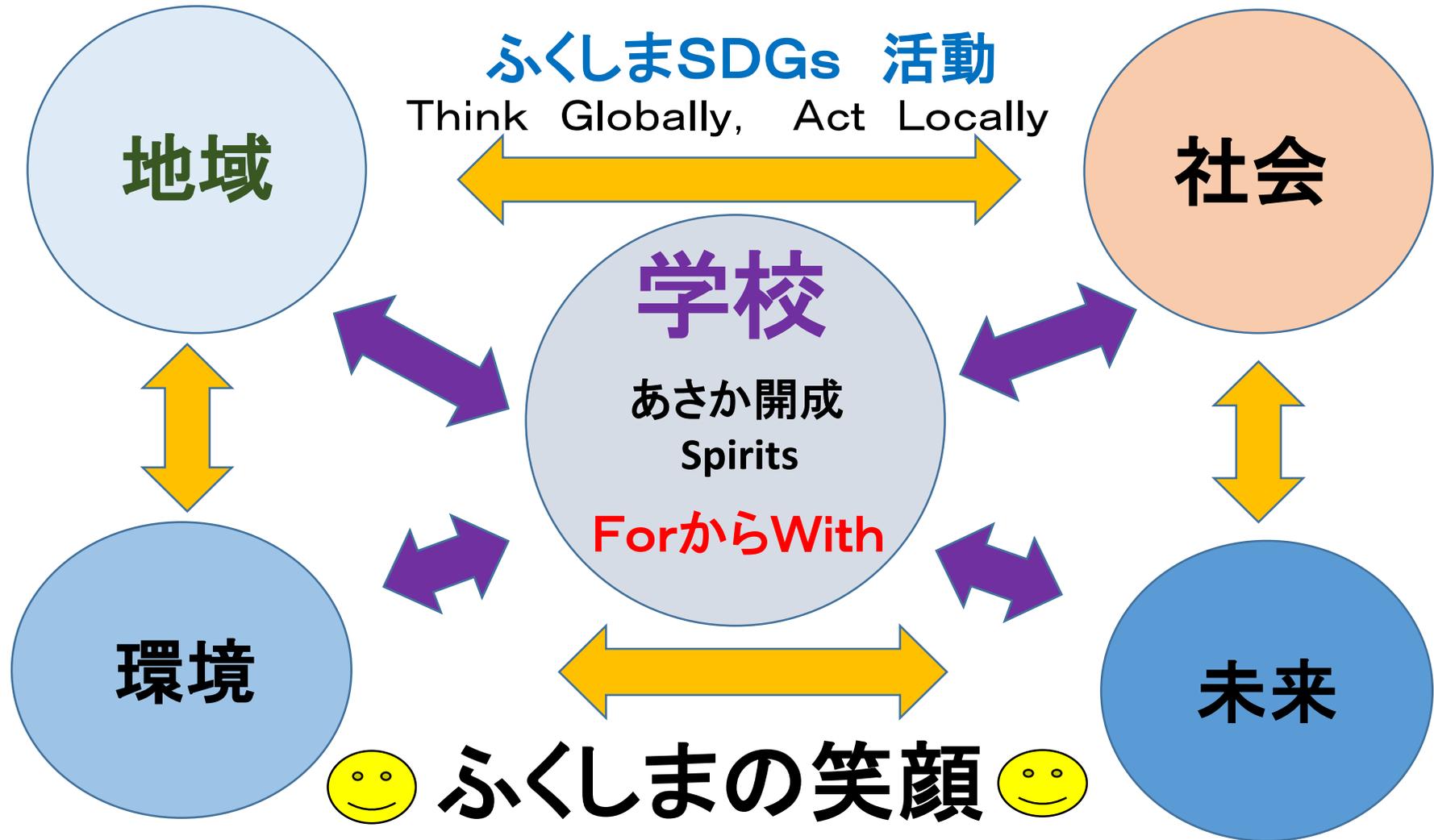
サステイナブルスピリッツ ～福島県立あさか開成高等学校の取組～



～Think globally , act locally～

- SDGs17の目標から毎月17日を「いいなの日」として、学校全体でSDGsについて考え、行動する日と決めて活動しています。
- 猪苗代湖の水環境保全活動や、県産食材を使った食品の開発など様々なSDGsの取組を、様々な主体と連携し行っています。
- 活動目標 『 for から with ～ 誰かのためにかから一緒に～ 』





SDGsの授業



炊き出し訓練-ポリ袋調理

災害時の食事





委員会
活動
毎月

エコキャップ回収
洗浄し世界の子供たちに



ワクチンで助かる
ちいさな命を救いたい



清掃活動

避難経路の確認 → 子どもたちとの活動 → 地域共助へ

多様な方々と多様な経験



山の学校 プログラム 毎月1回学習交流会

企業＋障害者就労支援事業所＋あさか開成高校＋国立環境研究所

山の学校 活動

福島の実験から、多様な人が力を合わせ「ありたい未来」を農園につくる

共生(個性、所属、文化、価値観の異なる様々な人が互いを認め合う
多様で豊かな社会を考える)

環境(自然から学び、大きな災害でもいち早く回復する力を備える)

WITH(みんな一緒に・ともに)

TAKE ACTION(行動へ)

環境学習







グループワーク・『多世代交流・対話』

絵本「きぼうのとり」





京都・大阪交流



未来創る一員に

転機に「きぼうのとり」 県内の歩み発信へ



震災の記憶を未来につないでいくと決意する須藤さん

須藤 聖菜さん 17

あさか開成高2年

「震災の記憶と希望を未来につないでいかなければならない。福島市で行われた県内の被災者の追悼式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

震災と東京電力福島第一原発事故が発生し、

震災と東京電力福島第一原発事故が発生し、

震災と東京電力福島第一原発事故が発生し、

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

東日本大震災追悼復興祈念式で若者のことは、あさか開成高2年の須藤聖菜さんが開成高一年の須藤聖菜（せいな）さん（モ）は、県内の現状と歩みを発信し続ける」と力強く語った。

会津高台

復興の追悼復興祈念式で会津若松市の会津高台唱部一、二年生二十五人は犠牲者への祈りと復興への願いを込め歌った。まだ見ぬ人に会いたい気持ちを歌った。詩人和合亮一さんが魂と再生へ思いを込めて作詞した「夜明けから日暮れまで」の二を歌った。部員と顧問の大竹隆教諭（たけりゅう）が合せて選曲した。部長の宮森結川（みやもりゆづる）は「いかさん（モ）は一場の外の被災者にも





私たちの願い

あさか開成の3つの願い

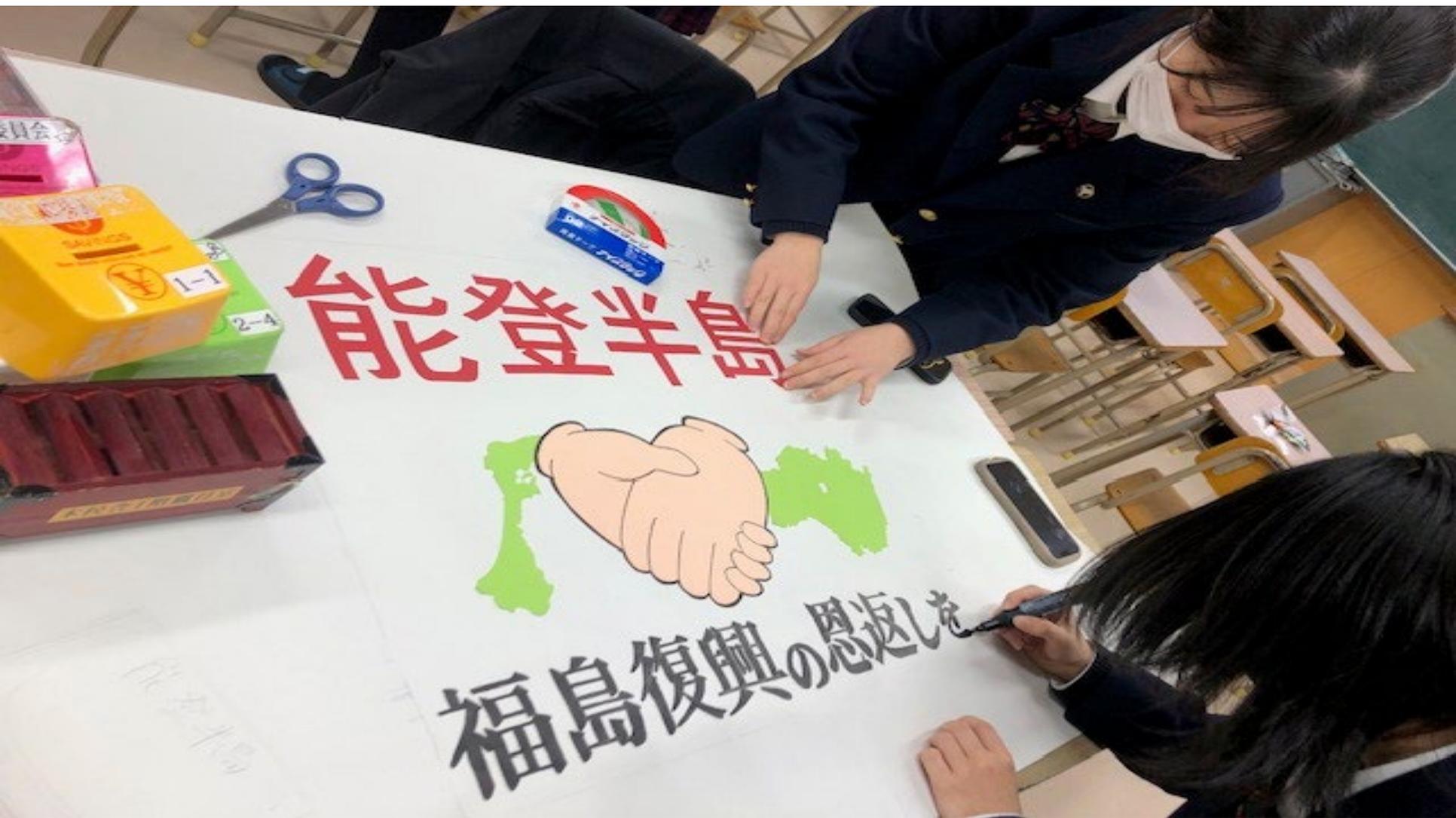
- ①ふくしまの復興②世界の平和
- ③だれもが安全で安心できる社会 未来を
あるよう願います。

学校名 福島県立 あさか開成高等学校

能登半島



福島復興の恩返しを



目標18 ふくしまSDGs 活動

みんなで❤️

「Take action!」

みんなの未来のために 「行動へ」

「WITH♥」 & 「Take action！」 ~「共感」から「行動へ」

あさか開成SDGs →→2024→→2030→→



災害と教育

to be continued. . . .

第3部 パネルディスカッション

「防災教育は命と地域を救えるか」

小川 正様(輪島市教育委員会教育長)

佃 拓生様(釜石市立釜石東中学校校長)

津守 大智様(宮城県多賀城高等学校教諭)

渡部 真奈美様(福島県立あさか開成高等学校国際部長)

進行／武田 真一(3.11メモリアルネットワーク代表理事)

教育は、
命を守ることに繋がったのか？

温度差があるのではないか？

どうしたらいいか？

教育現場に何が出来るか？

次世代につなぐために
どんな実践をすればいいのか

災害対応を超えてどんな
意義や役割や教育的成果があるか

何が必要か

第3部 パネルディスカッション

「防災教育は命と地域を救えるか」

小川 正様(輪島市教育委員会教育長)

佃 拓生様(釜石市立釜石東中学校校長)

津守 大智様(宮城県多賀城高等学校教諭)

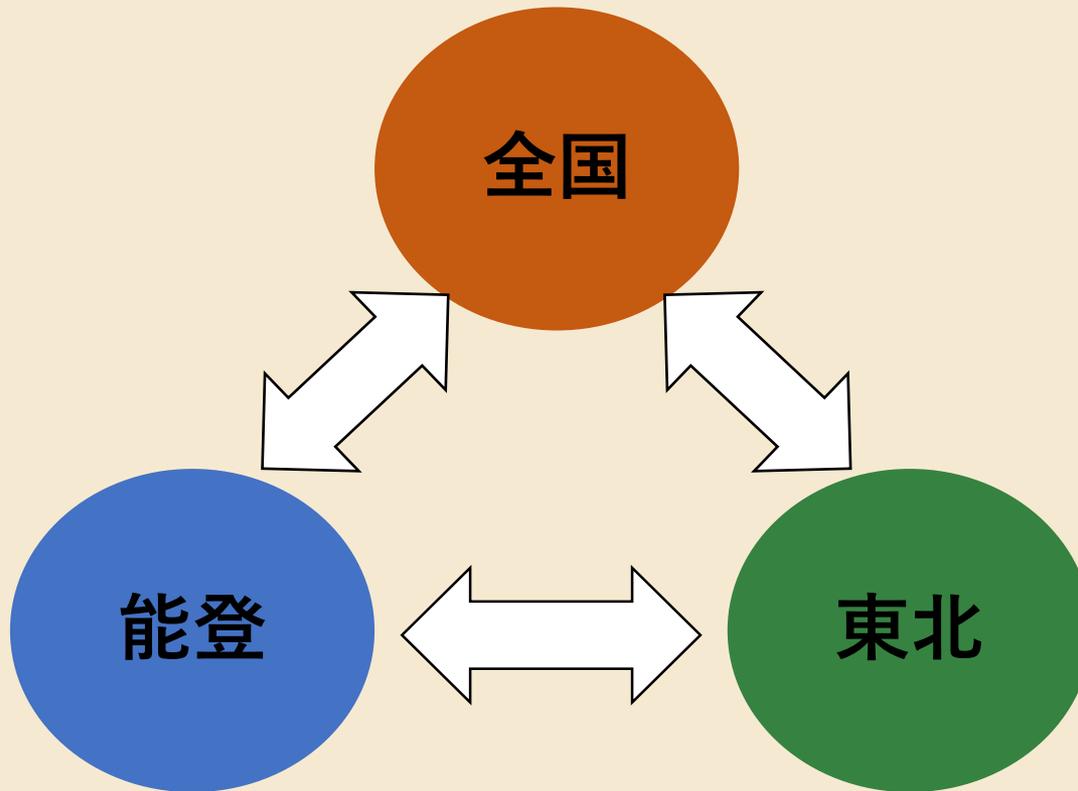
渡部 真奈美様(福島県立あさか開成高等学校国際部長)

進行／武田 真一(3.11メモリアルネットワーク代表理事)

まとめにかえて

中川 政治(3.11メモリアルネットワーク専務理事)

被災地からの学びが、命を守る



平成 26 年度

小木中学校修学旅行

自主防災組織の同行記録

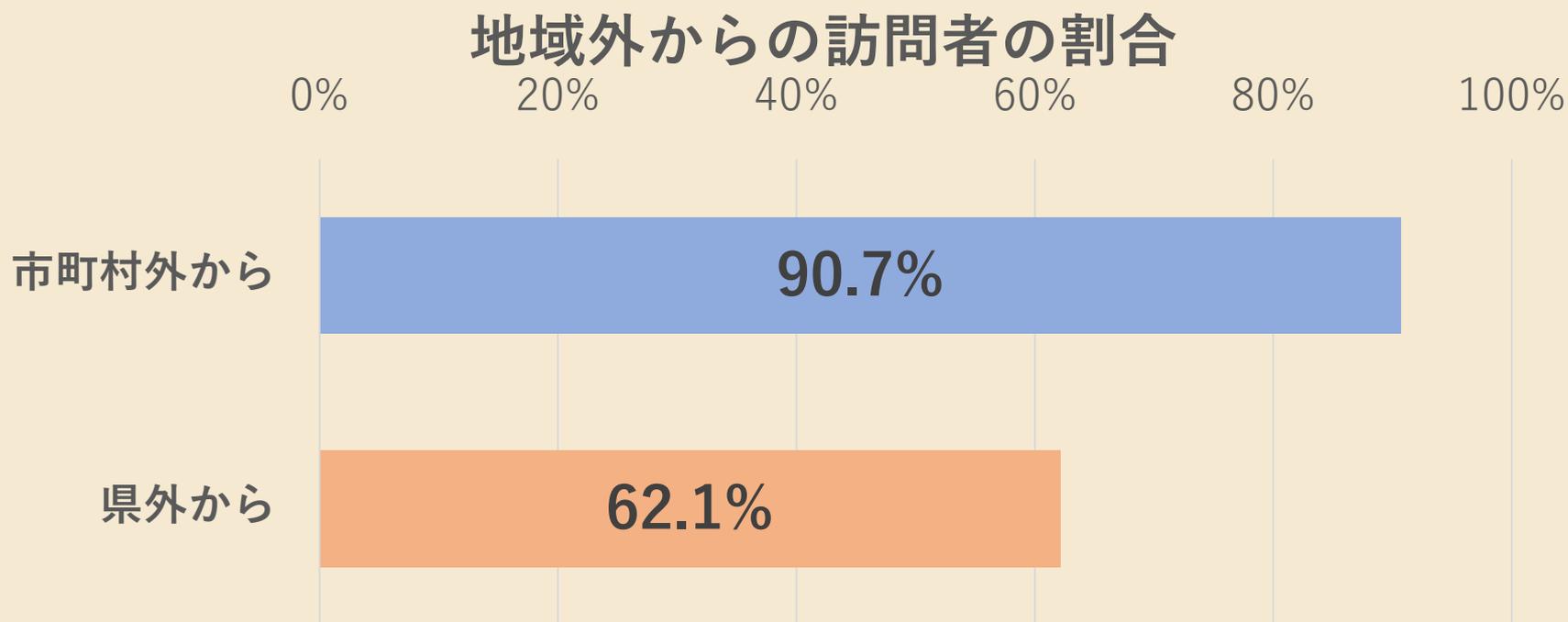


小木地区自主防災会

被災地から、全国の未災地へ

東北の伝承は、誰のため？

全国から、東北の伝承団体・施設へ



※市町区分での訪問者数回答が得られた12伝承団体、10伝承施設、
県区分での訪問者数回答が得られた11伝承団体、13伝承施設の集計

伝承が生み出す「主体的な態度」

主体的に
学習に取り組む
態度

知識・技能

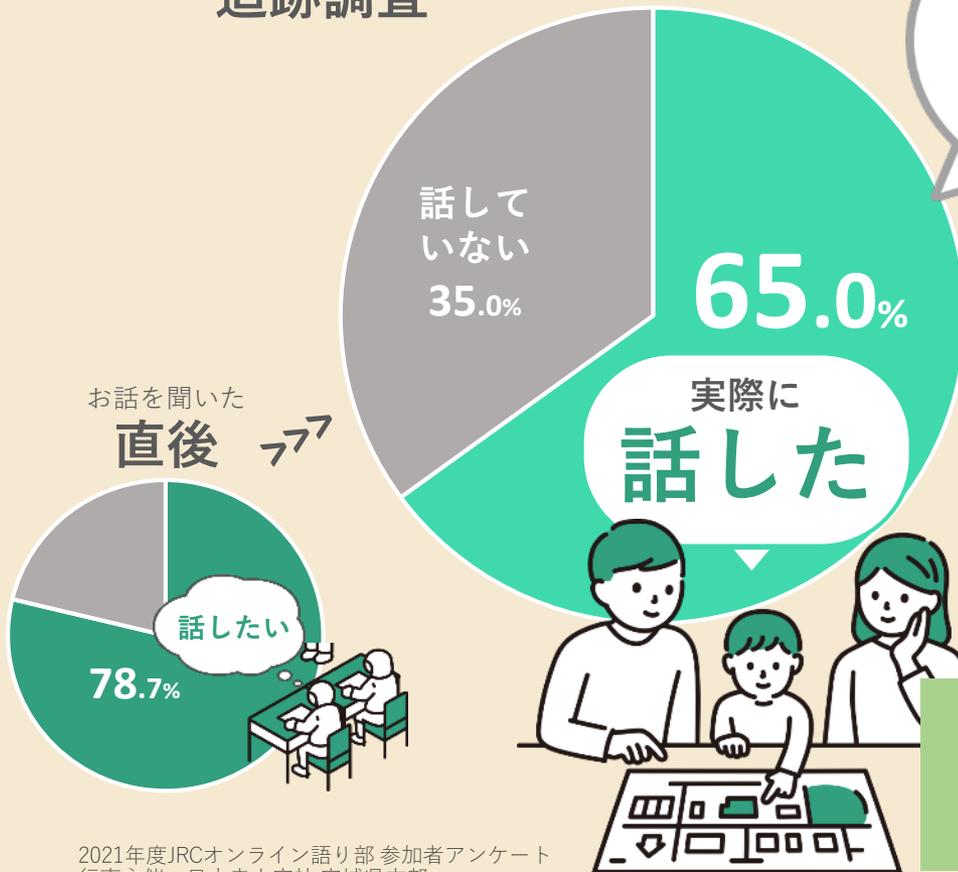
思考・判断・
表現

“苦手な科目をがんばろうと思いました”

「語り」が促す行動変容

語り部に聞いたことを家族に話したい？／話した？
(N=1,247)

追跡調査



安全なところに
ひなんするた
め、計画を立て
た

(災害発生時に)
もしも1人だった
場合のことを
話し合った

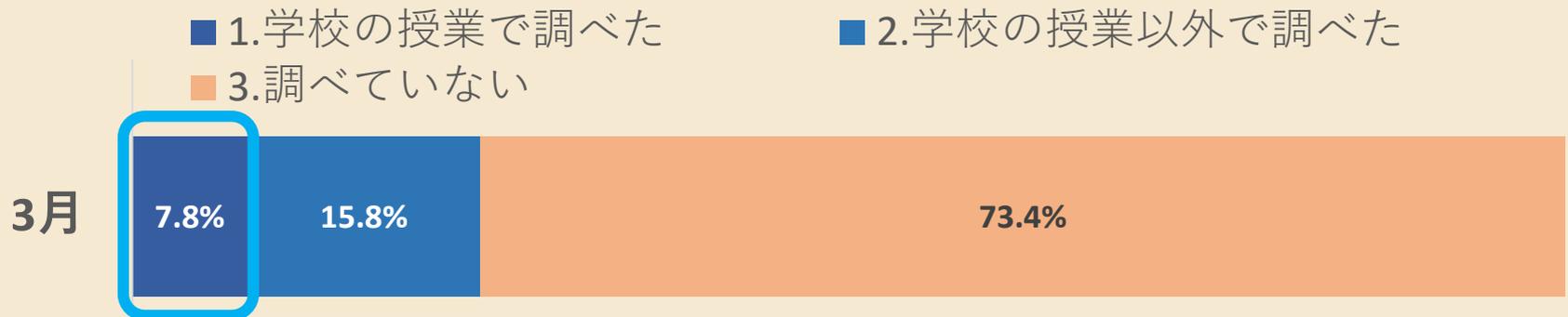
「家族と話します」 (本当に?)

↓
「話しました！」 (本当に!)

「語り」による変化の定着は、学校で！

地域のことを調べたい？ / 調べた？ (N=1,247)

- 1. とてもそう思う
- 2. まあそう思う
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり思わない
- 5. まったくそう思わない

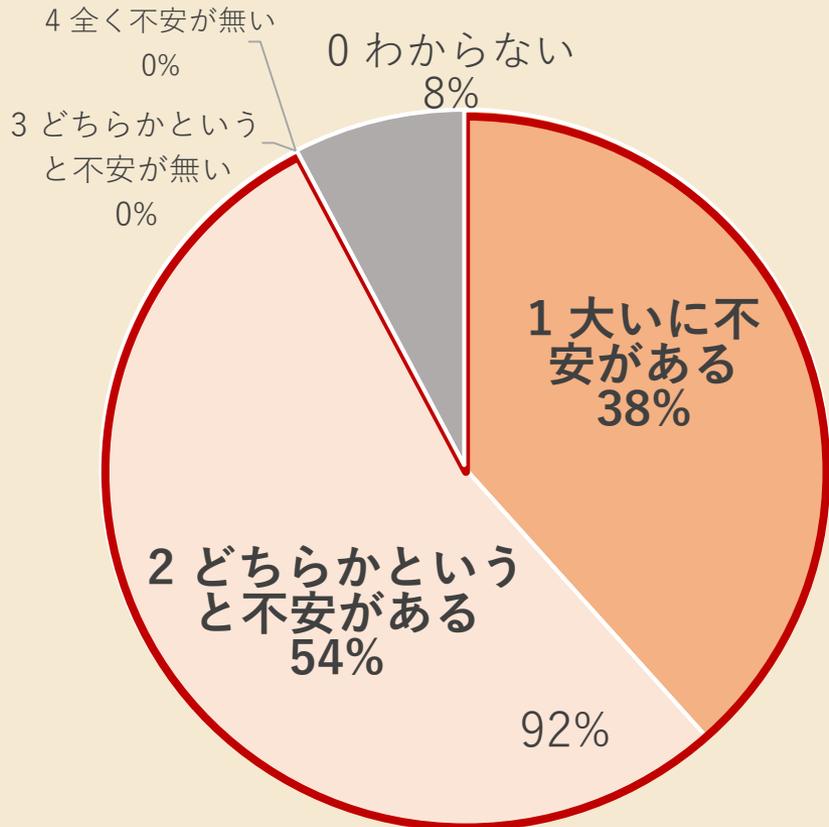


「語り」で生まれた主体性、
事後学習で地域展開を！

継続性の不安、活動資金への期待

2023年震災伝承活動調査(3.11メモリアルネットワーク)より

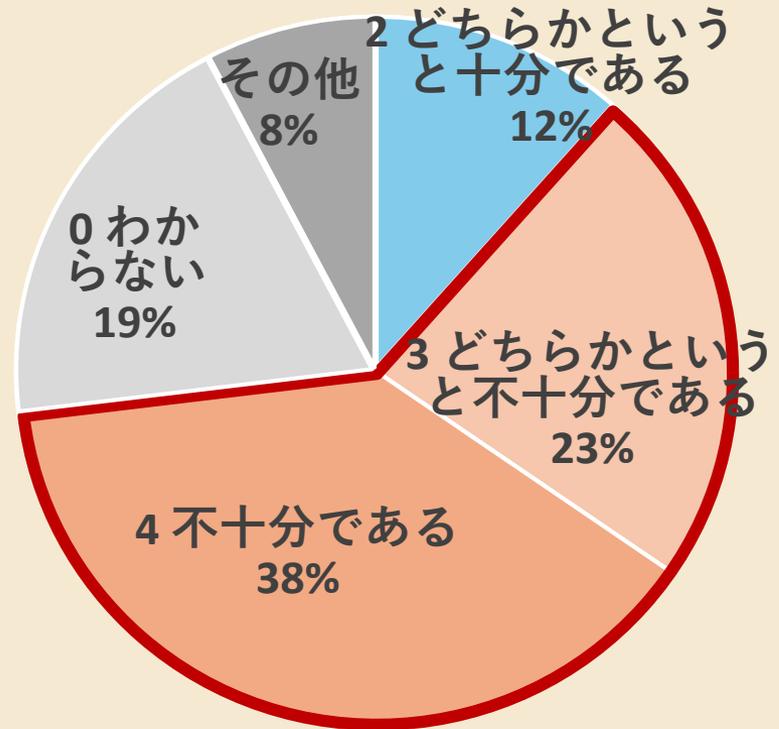
伝承活動を継続する上での不安



不安がある
92%

震災学習プログラム実施団体
(岩手・宮城・福島の26団体)

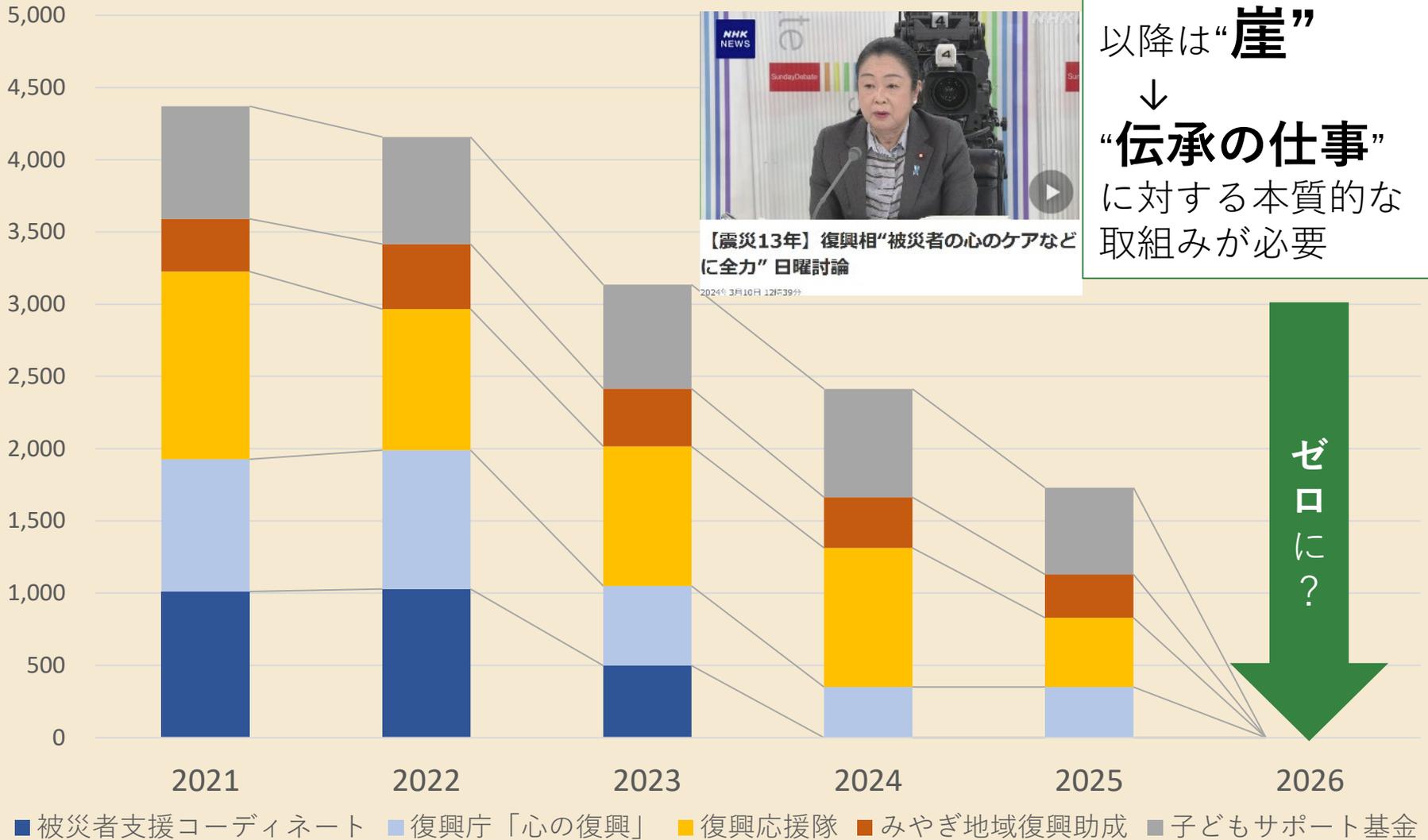
震災伝承継続に関する公的な資金支援の状況



不十分
61%

発災後15年の「崖」

公益社団法人3.11メモリアルネットワーク 公益目的事業（復興予算関連）収入推移



継続性の不安、活動資金への期待



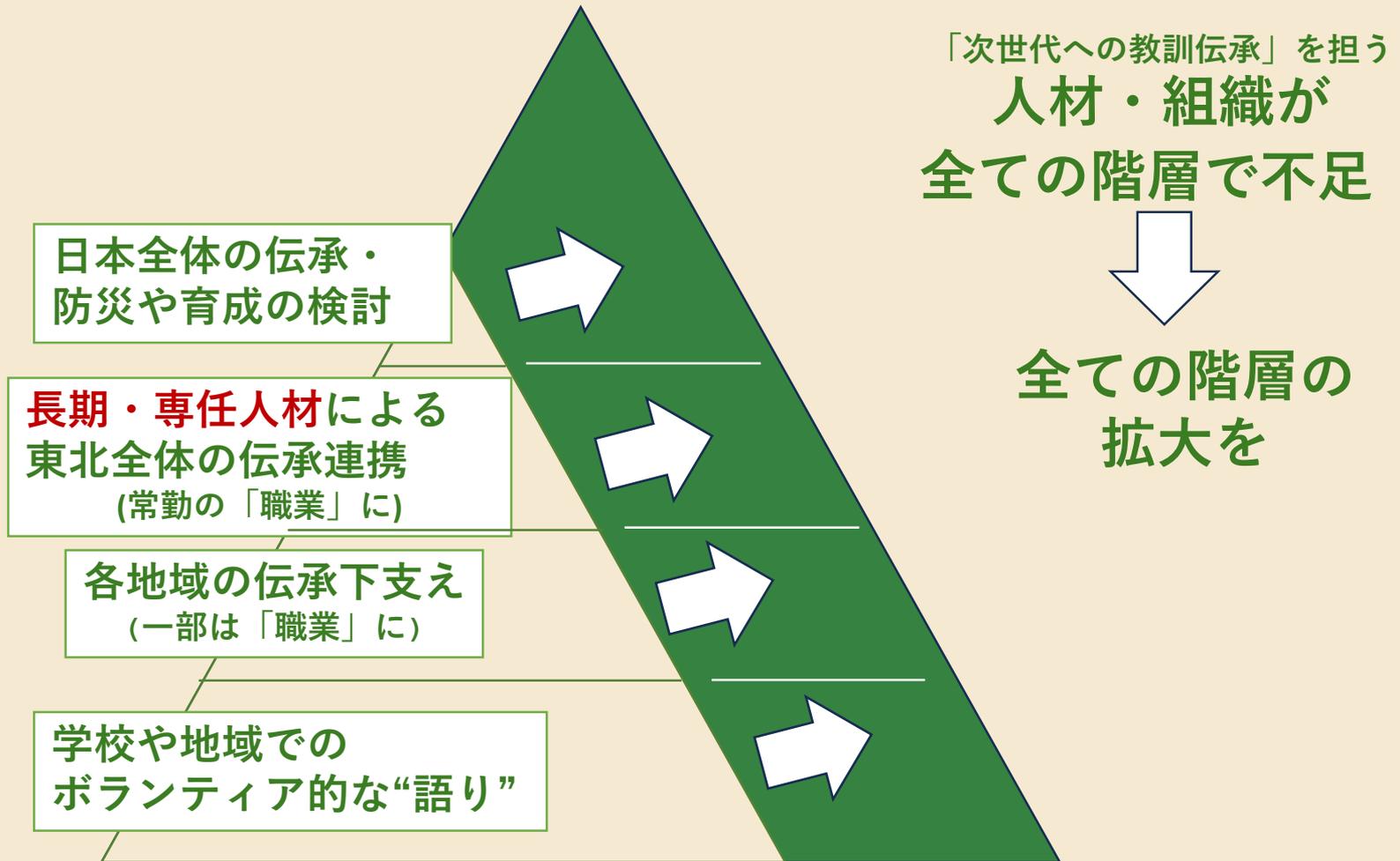
令和7年度 予算概算要求概要

6) 東日本大震災の教訓継承事業 0.3億円

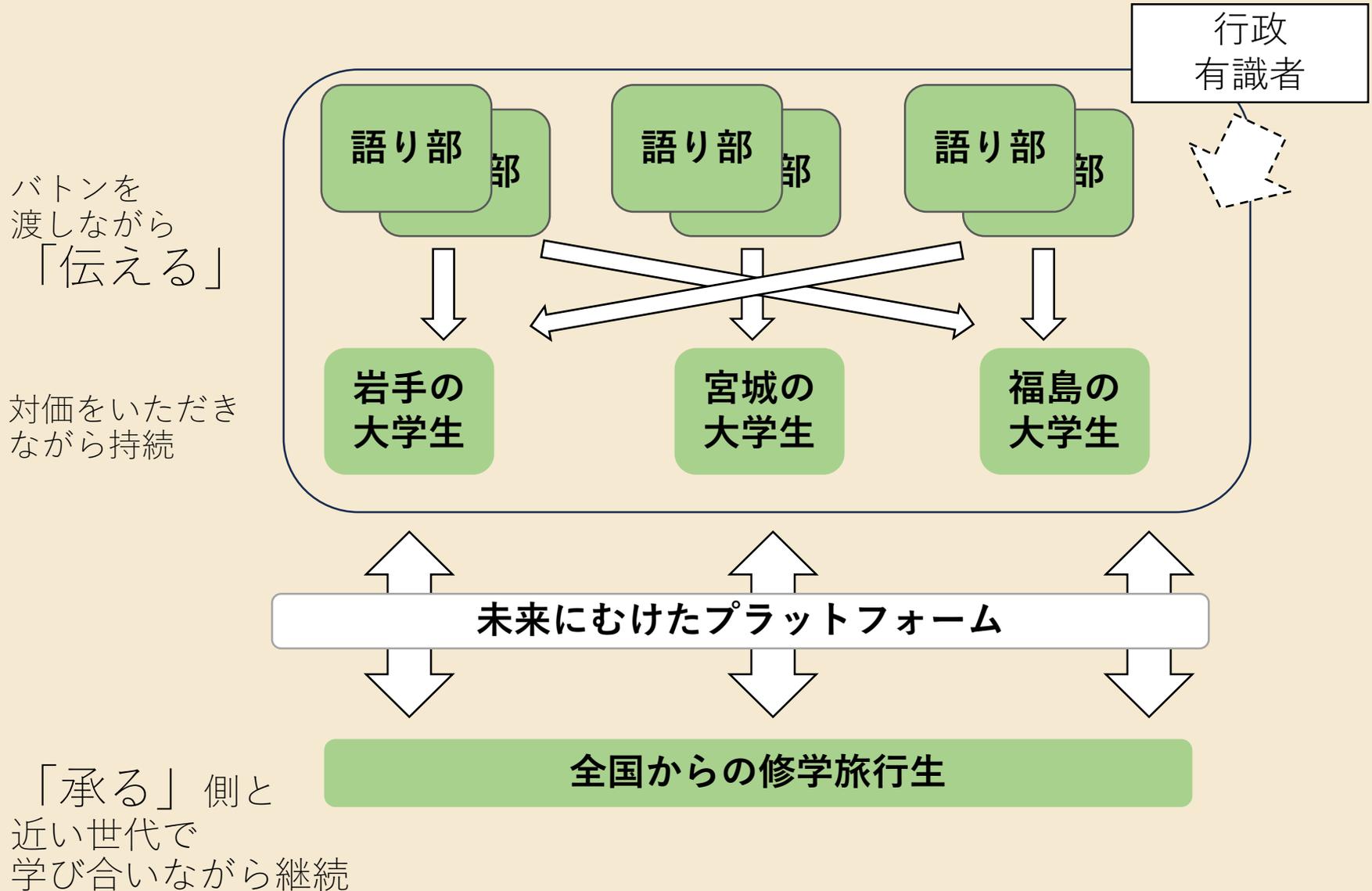
東日本大震災の教訓を後世に継承するため、復興政策における重要な意思決定に関わった閣僚を初めとする国会議員、地方公共団体の首長等の証言（オーラルヒストリー）を収集、記録すると共に、伝承団体や伝承プログラムの情報を取りまとめ、被災地全体で一覧性を持って公表する。

東北の伝承は「完了」...
ではなく「次世代」へ

「災害と教育」を伝える人材

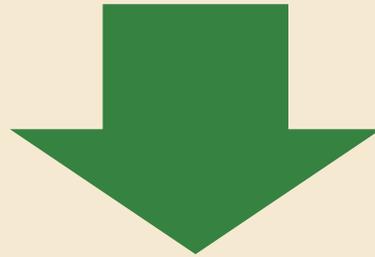


次世代育成と伝承の持続性向上に向けて



本日のテーマ

防災教育は、“命”と“地域”を救えるか？



救えます！！

「心の防潮堤」

「率先避難者たれ」 「出る杭たれ」

「未来のふるさとづくり」

本日のキーワード

主体的
自分ごと
自己有用感
主権者

閉会挨拶

公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

広域伝承連携部門 運営委員 瀬成田 実

若い先生に継承したい

地域間で交流したい

防災教育、震災伝承
校内、校外を問わず
広げていきたい

本日はご参加いただき、ありがとうございました。

① 参加者アンケートへのご協力【お願い】

今後の行事開催時の参考とさせていただきますので、参加者アンケートへのご協力を、よろしくお願いいたします。

【アンケートフォーム】 <https://forms.gle/jaZNWNLMmsHdRTDg6>



② 3.11メモリアルネットワーク「広域伝承連携メンバー」【ご案内】

3.11メモリアルネットワークでは、「広域伝承連携メンバー」を募集しています！メンバー特典として、メーリングリストで他メンバーからのお知らせやメルマガが届きます。(また、希望者は、WEBサイト「メンバー一覧」にお名前・ご所属を掲載させていただきます。)

*活動資金に充てるため、入会金として1,000円貰い受けております。
ご協力をよろしくお願いいたします。



③「3.11メモリアルネットワーク基金」へのご寄付【お願い】

3.11メモリアルネットワークでは、東北3県の伝承活動を支えるための基金を設置しています。皆様からのご寄付を元に、2020年度より毎年、助成事業を行っています。



3.11メモリアルネットワーク基金

2023年度助成

